

StorageTek Enterprise Library Software

ELS のインストール

バージョン 7.1



パート番号 : E28877-01
2011 年 9 月

このドキュメントに関するコメントは STP_FEEDBACK_US@ORACLE.COM に送信してください。

ELS7.1 のインストール

E28877-01

Oracle は、このマニュアルを改善するためのコメントや提案を歓迎いたします。 STP_FEEDBACK_US@ORACLE.COM にご連絡ください。タイトル、パート番号、発行日、およびリビジョンを含めてください。

Copyright © 2009, 2011, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are “commercial computer software” or “commercial technical data” pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle USA, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション（人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む）への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（*redundancy*）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことに起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

Oracle は Oracle Corporation およびその関連会社の登録商標です。Oracle と Java は Oracle Corporation およびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

AMD、Opteron、AMD ロゴ、AMD Opteron ロゴは、Advanced Micro Devices, Inc. の商標または登録商標です。Intel、Intel Xeon は、Intel Corporation の商標または登録商標です。すべてのSPARCの商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc. の商標または登録商標です。UNIXはX/Open Company, Ltd. からライセンスされている登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

目次

まえがき 11

このリリースの新機能 15

1. インストールの準備 17

概要 17

ELS インストールパッケージ 18

ELS インストールテープの内容 19

ELS インストール CD-ROM の内容 20

ソフトウェアおよびハードウェア要件 21

ソフトウェア要件 21

ハードウェア要件 23

仮想ストレージの要件 24

インストール準備作業の考慮事項 25

2. ELS および追加ソフトウェアのインストール 27

概要 27

インストールに関するチェックリスト 28

SMP/E JCL ライブラリのアンロード 29

ELS インストールテープからの SMP/E JCL ライブラリのアンロード 30

ELS インストール CD-ROM からの SMP/E JCL ライブラリをアンロード 31

CHGIT メンバーの編集 31

CHGIT メンバーのテスト 32

SMP/E 環境の準備 32

SMP/E の考慮事項 32

ELS グローバル SMP/E Consolidated Software Inventory (CSI) の定義および
初期設定 33

ターゲットおよびディストリビューションライブラリデータセットの
割り振りと、必須の DDDEF エントリ 34

SYSLIB 連結の更新 37

ELS FMID の検証 38

ELS 機能の RECEIVE 38

ELS インストールテープからの ELS 機能の RECEIVE 39

ELS インストール CD からの ELS 機能の RECEIVE 40

ELS 機能の APPLY 41

ELS 機能の ACCEPT 42

3. ELS 保守のインストール 43

概要 43

保守インストールデータセット 43

ELS 修正サービスメディア 44

ELS 保守の SMP/E JCL サンプルのアンロード 44

ELS 修正サービス CD-ROM のアンロード 45

保守の SMP/E RECEIVE 46

保守の SMP/E APPLY 46

保守の SMP/E ACCEPT 46

HELD ELS PTF の分離 47

適用可能な ELS HOLDSYSTEM SYSMODS の APPLY 48

4. ELS インストール後の作業の実施 49

概要 49

ELS ロードライブラリの許可 50

IEAAPFzz メンバーへの ELS ロードライブラリの追加 50

PROGzz メンバーへの ELS ロードライブラリの追加 51

ELSロードライブラリの APF 許可 51

SMC インストール後の作業の実施 52

SMC の MVS サブシステムとしての定義 52

MVS LINKLIST ライブラリへの SMCBPRESI モジュールの
コピーまたは移動 56

MVS プログラム属性テーブルへの SMC の追加 56

SMC データスペースに関する考慮事項	56
HSC インストール後の作業の実施	57
HSCのMVS サブシステムとしての定義	57
HSC ユーザー出口ライブラリの許可	58
MVS LINKLIST ライブラリへの SLSBPRESI モジュールの コピーまたは移動	59
MVS プログラム属性テーブルへの HSC の追加	60
HSC および VTCS の SMF パラメータの追加	60
TMS インタフェース (SLUDR*) ルーチンの再アセンブル	61
JES3インストール後の作業の実施	62
SMC のための SMCERSLV のアセンブルおよびリンク編集	62
SMC JES3 ロードライブラリの許可	63
SMC Type 1 の修正の作成およびインストール	65
SMCのJES3 IATUX09ユーザー出口の修正の作成およびインストール	68
SMC の JES3 IATUX71 ユーザー出口の修正の作成およびインストール	70

5. ELS 追加ソフトウェアのインストール後の作業の実施 73

概要	73
LCM インストール後の作業	74
LCM ロードライブラリの許可	74
EDI からの HSC CDS の除外	75
LCM インストールの検証	76
LCM Agent のインストールおよび構成 (省略可能)	77
LCM Explorer のインストール (省略可能)	80
MVS/CSC インストール後の作業	82
MVS/CSC のMVS サブシステムとしての定義	82
同じMVS ホストシステムで実行する複数の MVS/CSC サブシステムの 定義	83
MVS/CSC ロードライブラリの許可	84
MVS/CSC ユーザー出口ライブラリの許可	86
MVS LINKLIST ライブラリへの SCSBPRESI モジュールの コピーまたは移動	88
MVS プログラム属性テーブルへの MVS/CSC の追加	88
MVS/CSC のイベントログおよびトレースのデータセットの割り振り	88
LibraryStation インストール後の作業	89

概要 89

LibraryStation ロードライブラリの許可 89

永続データファイル (PDF) の定義 (省略可能) 91

A. ELS サンプル、モジュールおよびマクロ 95

概要 95

ELS のサンプル、ソースコードモジュール、およびマクロ 96

LCM のサンプル 102

MVS/CSC のサンプルおよびマクロ 104

LibraryStation のサンプルおよびソースコードモジュール 105

索引 107



図 2-1	ELS インストールテープから SMP/E JCL ライブラリをアンロードする JCL	30
図 4-1	SMCJTYP1 JCL	67
図 4-2	SMCJUX09 JCL	69
図 4-3	SMCJUX71 JCL	70
図 5-1	LibraryStation PDF データセットを定義する JCL	92

表

表 1-1	ELS 7.1 インストールテープの内容 19
表 1-2	ELS 7.1 インストール CD-ROM の内容 20
表 1-3	ELS 7.1 ソフトウェア要件 21
表 1-4	ELS 7.1 ソフトウェア互換性マトリックス 22
表 1-5	ELS 7.1 ハードウェア要件 23
表 1-6	ELS 7.1 MVS 仮想ストレージ要件 24
表 2-1	インストールに関するチェックリスト 28
表 2-2	SMP/E JCL サンプルメンバー 29
表 2-3	ELS ターゲットライブラリデータセット 35
表 2-4	ELS 配布ライブラリデータセット 36
表 2-5	ELS 7.1 FMID 38
表 3-1	ELS 7.1 修正サービステープの内容 (ラベルなしテープ) 44
表 3-2	ELS 7.1 修正サービス CD の内容 (コードディレクトリ) 44
表 5-1	SAMPLIB メンバーのパラメータファイル 76
表 5-2	トレースおよびイベントログのデータセット 88
表 5-3	PDF のデータセット名 93
表 A-1	ELS のサンプル 96
表 A-2	ELS のソースコードモジュール 97
表 A-3	ELS のマクロ 98
表 A-4	LCM のサンプル 102
表 A-5	MVS/CSC のサンプル 104
表 A-6	MVS/CSC のマクロ 105
表 A-7	LibraryStation のサンプル 105
表 A-8	LibraryStation のソースコードモジュール 105

まえがき

Oracle の StorageTek Enterprise Library Software (ELS) は、次の基本ソフトウェアで構成されるソリューションです。

- Oracle StorageTek Storage Management Component (SMC: ストレージ管理コンポーネント)
(StorageTek HTTP Server として知られていた製品を含みます)
- Oracle StorageTek Host Software Component (HSC: ホストソフトウェアコンポーネント)
- Oracle StorageTek Virtual Tape Control Software (VTCS: 仮想テープ制御ソフトウェア)
- Oracle StorageTek Concurrent Disaster Recovery Test (CDRT: 並行障害回復テスト)

また、ELS パッケージとともに次のソフトウェアが提供されます。

- Oracle StorageTek Library Content Manager (LCM)。LCM には、以前 Offsite Vault Feature として知られていた製品の拡張版が含まれます。
- Oracle StorageTek MVS 環境用クライアントシステムコンポーネント (MVS/CSC)
- Oracle StorageTek LibraryStation

このドキュメントでは、ELS をテープまたは CD-ROM からインストールする方法について説明します。このドキュメントは、ELS のインストールおよび構成を行うストレージ管理責任者、システムプログラマ、およびオペレータを対象としています。

このドキュメントで説明している作業を行うには、次の事項についての知識が必要です。

- z/OS オペレーティングシステム
- JES2 または JES3
- Enterprise Library Software (ELS)

関連ドキュメント

StorageTek Enterprise Library Software (ELS)

- *Introducing ELS*
- *ELS コマンド、制御文、およびユーティリティーリファレンス*
- *ELS Syntax Quick Reference*
- *ELS メッセージおよびコード解説書*
- *ELS Programming Reference*
- *ELS Legacy Interfaces Reference*
- *HSC および VTCS の構成*
- *HSC および VTCS の管理*
- *SMC の構成と管理*
- *ELS Disaster Recovery and Offsite Data Management Guide*

StorageTek Library Content Manager (LCM)

- *LCM User's Guide*
- *LCM Messages and Codes*
- *LCM Quick Reference*

StorageTek Client System Component for MVS Environments (MVS/CSC)

- *MVS/CSC Configuration Guide*
- *MVS/CSC Messages and Codes Guide*
- *MVS/CSC Operator's Guide*
- *MVS/CSC Syntax Quick Reference*
- *MVS/CSC System Programmer's Guide*

StorageTek LibraryStation

- *LibraryStation Configuration and Administration Guide*
- *LibraryStation Syntax Quick Reference*

ドキュメント、サポート、および トレーニング

機能	URL
Oracle ホーム	http://oracle.com
マニュアル	http://oracle.com/technetwork/indexes/documentation/index.html
サポート	http://www.oracle.com/us/support/044752.html
トレーニング	http://www.oracle.com/global/us/education/sun_select_country.html

追加情報

表記上の規則

表記法

このドキュメントの JCL 例の一部は、*斜体*フォントで表記されています。変数は斜体フォントで表記します。これらの変数には、実際に使用する値を入力する必要があります。

コマンド、制御文、パラメータにおいて大文字と小文字が混在している場合、省略形で省略できる文字が小文字で示されています。たとえば、POLiCy コマンドを実行する場合は、単に POL と入力できます。

制御文

通常、制御文には、次の構文表記法が使用されます。

- 有効な制御文情報域は、列 1 - 列 72 のみです。列 73 - 80 は無視されます。
- パラメータの区切りには、1 つまたは複数の空白スペースまたはカンマを使用できます。
- パラメータと値の関連は、イコール (=) 記号で示すか、値をカッコで囲み、パラメータの直後に連結させて示します。
- 実際の制御文では、大文字／小文字は区別されません。
- 次行に続く文の場合は、プラス (+) 記号を前行の末尾に加えます。文が続かない場合、制御文は終了します。
- ジョブストリームにコメントを加える場合は、/* および */ で囲みます。コメントは複数行に渡って追加できますが、入れ子にはできません。

PARMLIB メンバー は /*...*/ という注釈を**最初の**制御文に含める必要があります。そうしないと、旧形式であるとみなされます。旧形式の注釈は、列 1 のアスタリスクから始まらなければなりません。

定義データセット (VOLATTR、UNITATTR、および TAPEREQ) の場合、注釈は新しい形式 (/...*/) でなければなりません。

- アスタリスク (*) の注釈は**使用できません**。
- 最初の行には /*...*/ という注釈は**必要ありません**。
- 制御文の最大長は 1024 文字です。

このリリースの新機能

このドキュメントには、次の ELS の機能拡張についての情報が含まれます。

リビジョン 03

リビジョン 03 では VTCS 7.1 CDS 要件が改訂されました。
[22 ページの「ELS ソフトウェアの互換性」](#)を参照してください。

リビジョン 02

リビジョン 02 では基本機能と製品の保守に関するインストール順序の明確化が追加されました。[28 ページの「インストールに関するチェックリスト」](#)を参照してください。

リビジョン 01

リビジョン 01 では Oracle の StorageTek T10000C テープドライブのサポートが追加されました。
[23 ページの「ハードウェア要件」](#)を参照してください。

第1章

インストールの準備

概要

この章では、ELS インストールパッケージおよびインストール準備要件について説明します。次のトピックがあります。

- ELS インストールパッケージ
- ソフトウェアおよびハードウェア要件
- 仮想ストレージの要件
- インストール準備作業の考慮事項

ELS インストールパッケージ

ELS インストールパッケージには、次のものが含まれています。

- ELS インストールファイルまたはメディア (テープまたは CD-ROM) - ELS ソフトウェア機能 (FMID) およびインストールに使用するサンプルが収録されています。ソフトウェア機能は、次のソフトウェアを対象としています。

基本ソフトウェア:

- StorageTek Storage Management Component (SMC: ストレージ管理コンポーネント) (StorageTek HTTP Server として知られていた製品を含みます)
- StorageTek Host Software Component (HSC: ホストソフトウェアコンポーネント)
- StorageTek 仮想テープ制御ソフトウェア (Virtual Tape Control Software、VTCS)
- StorageTek Concurrent Disaster Recovery Test (CDRT)

追加ソフトウェア:

- StorageTek Library Content Manager (LCM) (旧 ExLM) (Offsite Vault Feature として知られていた製品を含みます)
 - StorageTek MVS 環境用クライアントシステムコンポーネント (MVS/CSC)
 - StorageTek LibraryStation
- ELS 修正サービスファイルまたはメディア (テープまたは CD-ROM) - ELS PTF、HOLDDATA、カバーレター、およびインストールメディア作成時からリリースされた要約情報が収録されています。
 - テープでのインストールの場合、修正サービスは別個の修正サービステープで提供されます。
 - CD-ROM でのインストールの場合、修正サービスは ELS インストール CD-ROM の PTF ディレクトリに含まれています。

詳細については、[第 3 章「ELS 保守のインストール」](#)を参照してください。

- *ELS Read Me First* - リリース特有の重要な製品情報を含む。

注 -

- ELS ソフトウェアのインストールに先立ち、上記以外の必要な PTF については、オラクルソフトウェアサポートにお問い合わせください。
 - ELS ソフトウェアおよびサービスのインストールに際しては MVS Program Binder を使用してください。使用しない場合、link-editing エラーの原因になります。
-

ELS インストールテープの内容

ELS は、ボリュームシリアル番号が SEA710 の標準ラベル 9840C または 9940B テープで配布されます。ELS インストールテープには、次のファイルが収録されています。

表 1-1 ELS 7.1 インストールテープの内容

ファイル	データセット名	説明
1	SMPMCS	SMP/E 制御文
2	SSEA710.F1	ELS (HSC、SMC、VTCS、および CDRT) JCLIN およびインストールサンプル
3	SSEA710.F2	ELS のサンプル
4	SSEA710.F3	ELS のマクロ
5	SSEA710.F4	ELS のソースモジュール
6	SSEA710.F5	ELS オブジェクトモジュール
7	SCS7100.F1	MVS/CSC JCLIN
8	SCS7100.F2	MVS/CSC のマクロおよびサンプル
9	SCS7100.F3	MVS/CSC ソースモジュール
10	SCS7100.F4	MVS/CSC オブジェクトモジュール
11	SMZ7100.F1	SMC JES3 JCLIN
12	SMZ7100.F2	SMC JES3 のサンプル
13	SMZ7100.F3	SMC JES3 のマクロ
14	SMZ7100.F4	SMC JES3 ソースモジュール
15	SMZ7100.F5	SMC JES3 オブジェクトモジュール
16	SOC7100.F1	LibraryStation JCLIN
17	SOC7100.F2	LibraryStation のマクロおよびサンプル
18	SOC7100.F3	LibraryStation オブジェクトモジュール
19	SSCR70C.F1	SAS/C 7.0 JCLIN
20	SSCR70C.F2	SAS/C 7.0 オブジェクトモジュール
21	SSCR70D.F1	SAS/C 7.0 JCLIN
22	SSCR70D.F2	SAS/C 7.0 オブジェクトモジュール
23	SLM7100.F1	LCM JCLIN
24	SLM7100.F2	LCM オブジェクトモジュール
25	SLM7100.F3	LCM のサンプル
26	SLM7100.F4	LCM GUI

ELS インストール CD-ROM の内容

ELS は標準 CD-ROM で配布されます。インストール CD-ROM には次のファイルが含まれています。

表 1-2 ELS 7.1 インストール CD-ROM の内容

ファイル	データセット名	説明
1	Documents	ELS CD インストール上の注意
2	SEA71.gimzip	ELS 製品を含む圧縮ファイル (JCL サンプルを除く)
3	SEA71.pax	ELS 製品を含む圧縮ファイル (JCL サンプルを含む)
4	Samples.unix	Unix バージョンの ELS サンプル
5	Samples.win	Windows バージョンの ELS サンプル (CR/LF を含む)
6	Start Here.html	資料フォルダへの XML 開始点

ソフトウェアおよびハードウェア要件

ソフトウェア要件

表 1-3 ELS 7.1 ソフトウェア要件

カテゴリー	サポートされるソフトウェア
オペレーティングシステム	IBM でサポートされる任意のバージョンの z/OS (JES2 および JES3 環境)
必要な ELS ソフトウェア	<ul style="list-style-type: none"> ■ StorageTek SMC 7.1 ■ StorageTek HSC 7.1
オプションの ELS ソフトウェア	<ul style="list-style-type: none"> ■ StorageTek VTCS 7.1 ■ StorageTek CDRT 7.1
追加ソフトウェア	<ul style="list-style-type: none"> ■ StorageTek LCM 7.1 ■ StorageTek LibraryStation 7.1 ■ StorageTek MVS/CSC 7.1
TCP/IP 通信	<ul style="list-style-type: none"> ■ IBM TCP/IP リリース 3.1以降 ■ CA Unicenter TCPaccess 通信サーバーリリース 5.0 以降 ■ CA Unicenter TCPaccess X.25 サーバーリリース 1 以降
SNA LU 6.2 通信	<ul style="list-style-type: none"> ■ IBM ACF/VTAM リリース 3.4.2 以降 ■ IBM APPC/MVS通信サービス <p>注: SNA LU 6.2 は次の種類の通信にのみ適用されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ HSC ホスト間 ■ IBM UNIX 上の MVS/CSC と ACSLS の間 ■ RMLS 400 クライアントから LibraryStation へ
HSC サーバーシステム通信	<ul style="list-style-type: none"> ■ IBM ACF/VTAM リリース 3.4.2 以降 ■ 複数レベルのホスト間通信には、LMU Microcode リリース 1.5.x 以降が必要です。

表 1-3 ELS 7.1 ソフトウェア要件 (続き)

カテゴリー	サポートされるソフトウェア
独立系ソフトウェアベンダーの製品	<ul style="list-style-type: none"> ■ ASG-Zara ■ CA-1 ■ CA-DYNAM/TLMS ■ CA-1(R)/Copycat Computer Associates International ■ CA-Dynam(R)/TLMS/Copycat Computer Associates International ■ CONTROL-M/TAPE ■ DFSMS ■ DFSMSdfp ■ DFSMSdss ■ DFSMSHsm ■ DFSMSrmm ■ DFSORT ■ FATSCopy Innovation Data Processing ■ FDR MIM Syncsort ■ Sysplex ■ Tape/Copy OpenTech Systems, Inc. ■ TelTape Cartagena Software Limited

ELS ソフトウェアの互換性

ELS 7.1 ソフトウェアの互換性については、次の表を参照してください。

表 1-4 ELS 7.1 ソフトウェア互換性マトリックス

ELS 7.1 ソフトウェア	互換性のあるソフトウェアリリース				
	SMC	HSC/VTCS	MVS/CSC	LibraryStation	ExPR
SMC 7.1		7.1 (同じホスト) 6.1, 6.2, 7.0, 7.1 (異なるホスト)	6.1, 6.2, 7.0, 7.1		
HSC/VTCS 7.1	7.1 (同じホスト)			7.1 のみ	6.1
VTCS 7.1 には CDS レベル F 以上が必要	6.1, 6.2, 7.0, 7.1 (異なるホスト)				
LCM 7.1		7.1 のみ			
LibraryStation 7.1		7.1 のみ			
MVS/CSC 7.1	7.1 のみ				

注 – VMS の CDS レベルを「H」に変更するためには、すべてのホストで ELS バージョン 7.1 が実行されている必要があります。
この要件は、バージョン 6.1、6.2、7.0、および 7.1 で互換性のある SMC クライアントの LPAR には適用されません。

ハードウェア要件

表 1-5 ELS 7.1 ハードウェア要件

カテゴリー	サポートされるハードウェア
プロセッサ	MVS を実行する IBM または IBM と互換性のあるプロセッサ (IBM がサポートする z/OS のすべてのバージョン)
StorageTek ライブラリ ストレージモジュール (LSM)	<ul style="list-style-type: none"> ■ SL3000 モジュール式ライブラリシステム ■ SL8500 モジュール式ライブラリシステム ■ PowderHorn(TM) 9310 ■ TimberWolf 9740 ■ WolfCreek 9360 ■ 標準 4410
StorageTek トランスポート および関連メディア	<ul style="list-style-type: none"> ■ T10000A/B/C ■ T9940A/B ■ T9840A/B/C/D ■ TimberLine(TM) 9490EE ■ TimberLine(TM) 9490 ■ 4490 ■ 4480 ■ SD3

注 -

- ACS にはライブラリトランスポートおよびメディアの混合を含めることができます。
- SL8500 および SL3000 ライブラリの HSC サポートの詳細は、『*HSC および VTCS の管理*』を参照してください。
- SL8500 および SL3000 の構成情報については、『*HSC および VTCS の構成*』を参照してください。

仮想ストレージの要件

ELS ソフトウェアの MVS 仮想ストレージ要件は次のとおりです。

表 1-6 ELS 7.1 MVS 仮想ストレージ要件

ELS ソフトウェア	仮想ストレージの要件
SMC	<ul style="list-style-type: none"> ■ JES2 の場合、ロードモジュールおよびデータ構造用に 16M 境界より上の約 2.8M バイトの ECSA ■ JES3 の場合、16M 境界より上の ECSA では 800K 追加 ■ 16M 境界より下の CSA の要件は特にありません。
HSC VTCS LibraryStation	<ul style="list-style-type: none"> ■ ロードモジュールおよびデータ構造用に 16M 境界より上の約 215K の ECSA ■ 一部のロードモジュールおよびデータ構造用に 16M 境界より下の約 20K の CSA ■ HSCの稼働中に、境界より上の ECSA の容量は動的に増減します。実際の容量はアクティビティおよびライブラリの大きさにより異なりますが、10K 以上増加することはあまりありません。 ■ 最小領域サイズ 6 MB。ただし、マニフェストファイルを操作するユーティリティやコマンドを実行している場合は、システムで許容される最大の領域サイズが必要。 <p>注:</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ これらの要件は、MVS の HSC アドレス空間で実行される VTCS および LibraryStation にも適用されます。 ■ 境界より下の約 400 バイトの CSA ストレージがサブプール 228 (FIXED)にあります。
MVS/CSC	<ul style="list-style-type: none"> ■ ロードモジュールおよびデータ構造用に 16M 境界より上の約 200K の ECSA ■ 一部のロードモジュールおよびデータ構造用に 16M 境界より下の約 34K の CSA

注 -

- MVS/CSC および HSC の稼働中に、境界より上の ECSA の容量はさらに増減します。実際の容量はアクティビティおよびライブラリの大きさにより異なりますが、10K 以上増加することはあまりありません。
- ECSA の実際の容量は、ライブラリの大きさおよび MVS に定義されるトランスポートの数により若干異なります。
- 修正サービステープのインストール、ソフトウェアの拡張、またはソフトウェアの新規リリースの際には、CSA の容量を増やす必要があります。

インストール準備作業の考慮事項

- SMC および HSC は**必須**の ELS コンポーネントで、インストールする**必要があります**。
- ELS 製品コンポーネントのインストールに先立ち、上記以外の必要な PTF については、オラクルソフトウェアサポートにお問い合わせください。
- NCS ソフトウェアの以前のリリースからマイグレーションする場合は、ELS 製品ドキュメントの適切なマイグレーションおよび共存のガイドラインについて理解しておく必要があります。
- ELS ソフトウェアは **SMP/E** を使用してインストールします。このマニュアルのすべてのインストール指示は、**SMP/E** に基づいています。
- ELS 製品のインストールおよび保守に際しては **MVS Program Binder** を使用してください。使用しない場合、**link-editing** エラーの原因になります。

ELS および追加ソフトウェアのインストール

概要

この章では、ELS ソフトウェアのインストールに必要な作業について説明します。次のトピックがあります。

- インストールに関するチェックリスト
- SMP/E JCL ライブラリのアンロード
- CHGIT メンバーの編集およびテスト
- SMP/E CSI 環境の準備
- ELS ターゲット、配布ライブラリデータセット、および必要な DDDEF エントリの割り振り
- SYSLIB 連結の更新
- ELS FMID の検証
- ELS 機能の RECEIVE (SMP/E RECEIVE)
- ELS 機能の APPLY (SMP/E APPLY)
- ELS 機能の ACCEPT (SMP/E ACCEPT)

ELS のインストールに先立ち、ELS 要件が満たされていることを確認し、[17 ページの「インストールの準備」](#)に記載されているインストール準備作業の考慮事項を確認してください。

インストールに関するチェックリスト

次のチェックリストを使用して、ELS のインストール作業がすべて完了しているかを確認します。

注 – ELS のインストールに先立ち、ELS 要件が満たされていることを確認し、[17 ページの「インストールの準備」](#)に記載されているインストール準備作業の考慮事項を確認してください。

表 2-1 インストールに関するチェックリスト

✓	ステップ	説明	サンプルメンバー	ページ
	1	テープまたは CD-ROM から SMP/E JCL ライブラリをアンロード		29
	2	必要であれば、要件に応じて CHGIT メンバーを編集します。	CHGIT	31
	3	CHGIT メンバーをテストし、編集を検証します。	I20TST	32
	4	SMP/E CSI の定義および初期設定	I30CSI	32
	5	ELS および JES3 ターゲット、配布ライブラリデータセット、および必要な DDDEF エントリの割り振り	I40ZON	34
	6	SYSLIB 連結の更新	I50LIB	37
	7	ELS FMID の検証		38
	8	必要な基本機能と通信機能、およびオプションの SMC JES3 機能の SMP/E RECEIVE	I60RCV (テープ) I60RNET/I60RNTS (CD)	38
	9	必要な基本機能と通信機能、およびオプションの SMC JES3 機能の SMP/E APPLY	I70APP	41
	10	必要な基本機能と通信機能、およびオプションの SMC JES3 機能の SMP/E ACCEPT	I80ACC	42
	11	ELS 基本機能の SMP/E RECEIVE 保守	MAINTRCF	46
	12	ELS 基本機能の SMP/E APPLY 保守	MAINTAPF	46
	13	基本機能の SMP/E ACCEPT 保守 (省略可能)	MAINTACF	46
	14	第 4 章 で説明している ELS インストール後の作業に進む。		49
	15	第 5 章 で説明している ELS 追加ソフトウェアのインストール後の作業に進む。		73

SMP/E JCL ライブラリのアンロード

ELS のインストールを開始するには、ELS インストールテープまたは CD-ROM から SMP/E JCL ライブラリをアンロードします。このライブラリには、インストール環境を準備し、ELS 機能および関連保守をインストールする際に使用する JCL サンプルメンバーが含まれています。

次のサンプルメンバーがあります。

表 2-2 SMP/E JCL サンプルメンバー

メンバー名	機能
CHGIT	ELS インストールサンプルメンバーのカスタマイズに使用する REXX exec (省略可能)
I10JCL	ELS インストールテープから SMP/E JCL ライブラリをアンロード
I20TST	CHGIT 設定をテストおよび検証
I30CSI	ELS グローバル SMP/E CSI の定義および初期設定
I40ZON	ELS (および追加ソフトウェア) のターゲットおよび配布データセットを割り振り、SMP/E CSI に適切な DDDEF エントリを定義。 ELS (オプションで JES3) ターゲットおよび配布データセットを割り振り、SMP/E CSI に適切な DDDEF エントリを定義。
I50LIB	必要な DDDEF エントリを追加し、SYSLIB 連結を変更
I60RCV	ELS インストールテープからの SMP/E RECEIVE ELS および追加機能
I60RNET (CD-ROM のみ)	I60RNTS (以下) のネットワークバージョン
I60RNTS (CD-ROM のみ)	ELS インストール CD-ROM からの SMP/E RECEIVE ELS および追加機能
I70APP	SMP/E APPLY ELS および追加機能
I80ACC	SMP/E ACCEPT ELS および追加機能
MAINTACF	特定の FMID 向けのマスモードでの SMP/E ACCEPT 保守
MAINTAPF	特定の FMID 向けのマスモードでの SMP/E APPLY 保守
MAINTRCF	特定の FMID 向けの SMP/E RECEIVE 保守

ELS インストールテープからの SMP/E JCL ライブラリのアンロード

ELS インストールテープのファイル 2 から SMP/E JCL ライブラリをアンロードするには、次のサンプル JCL を用いて次の手順を実行します。

```
//jobname      JOB your jobcard parameters
//UNLOAD       EXEC PGM=IKJEFT01,REGION=16385K
//SYSPRINT     DD SYSOUT=(,)
//SYSTSPRT     DD SYSOUT=(,)
//*
//  SET TUNIT=3480
//*
//SYSUT1       DD DISP=SHR,DSN=SSEA710.F1,VOL=SER=SEA710,
//  LABEL=(2,SL,EXPDT=98000),UNIT=(&TUNIT,,DEFER)
//*
//SYSTSIN      DD *
//              allocate dd(SYSUT2) mod catalog dir(10) dsntype(library) -
//                  avblock(10000) space(100,100) -
//                  dsn(your.ELS71.samples.JCL)
//
//              call *(IEBCOPY)
//
//SYSIN         DD *
L1  COPY OUTDD=SYSUT2,INDD=((SYSUT1,R))
L2  EXCLUDE MEMBER=SSEA710
//
```

図 2-1 ELS インストールテープから SMP/E JCL ライブラリをアンロードする JCL

このドキュメントの JCL の例および ELS インストールテープに収められているサンプル JCL では、フィールドが小文字で表記されている場合があります。ご使用のインストール要件に応じて、これらのフィールドを更新してください。

1. JOB カードを変更し、*jobname* およびユーザーの *jobcard parameters* の値を指定します。
2. 必要に応じてテープのユニット名 (SET TUNIT=3480) を変更します。
3. 必要に応じて、*dsn(your.ELS71.samples.JCL)* を変更します。引用符の付かない DSN には、接頭辞「TSO」が付けられます。
4. インストールテープをライブラリにコピーした場合は、VOL=SER=SEA710 をライブラリのボリュームシリアル番号に変更します。
5. ジョブをサブミットします。各手順で完了コード「0」が表示された場合は、手順が正常に完了したことを示しています。

ELS インストール CD-ROM からの SMP/E JCL ライブラリをアンロード

ELS インストール CD-ROM から SMP/E JCL ライブラリをアンロードするには、次の手順を実行します。

1. 使用している PC、MVS ホスト、および Unix Systems Services (USS) 間にネットワーク接続を確立します。
2. 使用している PC の CD-ROM ドライブに ELS インストール CD-ROM をセットします。
3. CD-ROM ドライブのルートディレクトリにナビゲートし、ファイル **Start Here.html** をクリックします。(一部のシステムでは、このファイルは自動的に開きます。)
4. 画面の指示に従い、SMP/E JCL ライブラリをアンロードします。

注 – 画面コマンド例の多くは、ブラウザのウィンドウから端末のウィンドウへカット & ペーストできます。

CHGIT メンバーの編集

SMP/E JCL ライブラリの CHGIT メンバーに含まれている一般的な ISPF 編集コマンドを使って、環境要件に合わせて ELS インストールサンプルメンバーをカスタマイズできます。

CHGIT を使用して、インストール設定を編集し、ELS 機能のインストールに使用するサンプルメンバーに適用できます。CHGIT はオプションの REXX exec として動作します。

CHGIT メンバーを編集するには、次の手順を実行します。

1. サンプルメンバーの注釈にある指示に従って CHGIT メンバーを編集し、変更を保存します。
2. CHGIT を SYSEXEC 連結にコピーします。これで、CHGIT をコマンドとして実行できるようになります。

または、次の TSO コマンドを発行して CHGIT を有効にすることもできます。

```
TSO allocate dd(SYSUEXEC) shr dsn(your.ELS71.SAMPLES.JCL)
TSO altlib activate user(exec)
```

既存の SYSUEXEC の割り振りを指定変更する場合は、「REUSE」キーワードを入力します。

注 – CHGIT の使用を推奨しますが、使用については任意です。エディタを使って各サンプルを個別に変更することもできます。この場合は、CHGIT をガイドとして参考にしてください。

CHGIT メンバーのテスト

サンプルメンバー **I20TST** (SMP/E JCL ライブラリ内) を使用して、CHGIT の編集をテストし検証します。

1. メンバー **I20TST** の編集モードに切り替えて、CHGIT コマンドを実行します。
2. **I20TST** ジョブをサブミットします。

ジョブが正常に完了すれば、残りの ELS インストールジョブに CHGIT メンバーを適用できます。

エラーが起こった場合は、CHGIT メンバーを編集してエラーを修正し、再びサブミットします。

SMP/E 環境の準備

ここでは、ELS 基本機能および SMC JES3 サポート機能のインストールのための SMP/E 環境の設定方法について説明します。サービスをインストールする場合は、[第 3 章「ELS 保守のインストール」](#)を参照してください。

ELS 製品は、SMP/E を使用してインストールされます。SMP/E のインストール処理には、正しい SMP/E ターゲットおよび配布ゾーンにインストールする RECEIVE、APPLY、および ACCEPT 機能が含まれます。

SMP/E の考慮事項

- ELS は SMP/E を使用してインストールする必要があります。このマニュアルのすべてのインストール指示は、SMP/E に基づいています。
- ELS を CD からインストールする場合、ELS を Unix Systems Services (USS) プラットフォームからインストールするには、SMP/E バージョン 3 リリース 1 以降が必要です。さらに、USS への読み取りおよび書き込みのアクセス権を持っている必要があります。
- すべての ELS 7.1 製品コンポーネントを新しいターゲットおよび配布 SMP/E CSI にインストールします。
- 同じグローバル SMP/E CSI にほかのベンダーの製品を ELS としてインストールしないでください
- すべての ELS ベース製品に SMP/E ACCEPT を実行します。
- TMS (テープ管理システム) インタフェースルーチン用のロードモジュール (SLUDRCA1、SLUDRRMM、SLUDRSMC、SLUDRTLML、および SLUDRZAR) は、ELS のインストール中に生成される SEALINK ライブラリに含まれています。これらのモジュールは HSC、SMC、および MVS/CSC で共有されます。

警告 –

- 旧リリースの ELS 製品コンポーネントを含む既存のグローバル SMP/E CSI に ELS 7.1 製品コンポーネントをインストールすると、SMP/E CSI から旧リリースのすべての SYSMODS (SAS/C に関連するものを除く) が削除されます。

このようなインストール方法を実行する場合は、ELS 7.1 製品コンポーネントのインストールに先立ち、既存のグローバル SMP/E CSI をバックアップすることをお勧めしています。

- 旧リリースの LibraryStation または MVS/CSC がインストールされている既存のグローバル SMP/E CSI に LibraryStation 7.1 または MVS/CSC 7.1 をインストールする場合は、SAS/C 機能 (FMID SSCR70C および SSCR70D) を再インストールする必要はありません。
 - 残したい SAS/C 機能を持つほかの StorageTek 製品が含まれているグローバル SMP/E CSI には、LibraryStation 7.1 または MVS/CSC 7.1 およびサポートされる SAS/C 機能をインストールしないでください。インストールすると、予測できない結果が生じる場合があります。
-

ELS グローバル SMP/E Consolidated Software Inventory (CSI) の定義および初期設定

サンプルメンバー **I30CSI** (SMP/E JCL ライブラリ内) を使用して、ELS のグローバル CSI (Consolidated Software Inventory) を定義し、初期設定します。

このジョブによって以下が実行されます。

- 必要な SMP/E データセットの定義
- Consolidated Software Inventory (CSI) データセットの定義。これにはこのリリースのための SMP/E グローバル、ターゲット、および配布ゾーンが含まれます。
- SMP/E CSI の初期設定
- SMP/E CSI に対するゾーン、オプション、ユーティリティ、および DDDEF エントリの追加

I30CSI ジョブは次の手順で実行します。

1. メンバー I30CSI の編集モードに切り替えて、CHGIT コマンドを実行し、CHGIT の編集を適用します。
2. I30CSI ジョブをサブミットします。

注 – CHGIT の使用を推奨しますが、使用については任意です。CHGIT を使用しない場合は、I30CSI サンプルメンバーのプロログにある指示に従って、必要な編集を行い、ジョブをサブミットします。

ターゲットおよびディストリビューションライブラリデータセットの割り振りと、必須の DDDEF エントリ

サンプルメンバー **I40ZON** (SMP/E JCL ライブラリ内) を使用して、ターゲットおよび配布データセットを割り振り、SMP/E CSI に適切な DDDEF エントリを定義します。ELS および追加ソフトウェアのターゲットおよび配布ライブラリデータセットについては、[35 ページの表 2-3](#) および [36 ページの表 2-4](#) を参照してください。

I40ZON ジョブは次の手順で実行します。

1. メンバー **I40ZON** の編集モードに切り替えて、CHGIT コマンドを実行し、CHGIT の編集を適用します。
2. I40ZON ジョブをサブミットします。

注 -

- CHGIT の使用を推奨しますが、使用については任意です。CHGIT を使用しない場合は、I40ZON サンプルメンバーのプロログにある指示に従って、必要な編集を行い、ジョブをサブミットします。
 - 旧リリースがインストールされている既存のグローバル SMP/E CSI に ELS 7.1 製品コンポーネントをインストールする場合は、以下に従ってください。
 - SMPCSI 文が既存のグローバル CSI を指していなければなりません。
 - SMPLOG および SMPLOGA 文がグローバルログを指していなければなりません。
 - SMPPTS 文がグローバル SMPPTS を指していなければなりません。
 - PDSE (Partitioned Data Set Extended) の代わりに PDS を使用する場合は、SEAMAC と ASEAMAC のディレクトリブロックを 50 に増やします。
-

ターゲットおよび配布ライブラリデータセット

I40ZON ジョブ.によって割り振られるターゲットおよび配布ライブラリデータセットについては、表 2-3 および 表 2-4 を参照してください。

注 –

- *hlq* は、データセットの高位修飾子です。インストール用に定義されている命名規則に基づいて、高位修飾子を選択します。
- 表の中のディレクトリブロックおよびブロックの欄に記載の数値は、製品に必要な最小値です。
- 各 DDDEF エントリに必要なとなる DDname は、データセット名の最後の修飾子と一致する必要があります。たとえばデータセット *hlq.SEALINK* の DDname は SEALINK です。
- 一時的な RELFILE データセット用に割り振る容量を指定する SMP/E DSSPACE パラメータは、少なくとも (300,150,270) に設定する必要があります。

表 2-3 ELS ターゲットライブラリデータセット

データセット名	製品	DSORG	RECFM	LRECL	BLKSIZE	ブロック (Pri/Sec)	ディレクトリ ブロック
<i>hlq</i> .SEALINK	ELS	PO	U	-	32760	500/50	99
<i>hlq</i> .SEAMAC	ELS	PO-E	FB	80	27920	20/10	5
<i>hlq</i> .SEASAMP	ELS	PO-E	FB	80	27920	20/10	5
<i>hlq</i> .SMZLINK	SMC JES3	PO	U	-	32760	20/10	5
<i>hlq</i> .LCMLINK	LCM	PO-E	U	-	32760	2504/250	5
<i>hlq</i> .LCMSAMP	LCM	PO-E	FB	80	27920	25/25	5
<i>hlq</i> .LCMGUI	LCM	PO	U	-	32760	198/500	5
<i>hlq</i> .SCSLINK	MVS/CSC	PO	U	-	32760	500/100	100
<i>hlq</i> .SCSMAC	MVS/CSC	PO-E	FB	80	27920	30/10	5
<i>hlq</i> .SCSSAMP	MVS/CSC	PO-E	FB	80	27920	30/10	5
<i>hlq</i> .SLCLINK	LibraryStation	PO	U	-	32760	500/100	50
<i>hlq</i> .SLCSAMP	LibraryStation	PO-E	FB	80	27920	30/10	5
<i>hlq</i> .CSLLINK	MVS/CSC LibraryStation	PO	U	-	32760	50/10	20
<i>hlq</i> .SACLINK	MVS/CSC LibraryStation	PO	U	-	32760	200/10	100

注 – PDSE (Partitioned Data Set Extended) の代わりに PDS を使用する場合は、SEAMAC のディレクトリブロックを 50 に増やします。

表 2-4 ELS 配布ライブラリデータセット

データセット名	製品	DSORG	RECFM	LRECL	BLKSIZE	ブロック (Pri/Sec)	ディレクトリ ブロック
hlq.ASEALINK	ELS	PO	U	-	32760	500/50	999
hlq.ASEAMAC	ELS	PO-E	FB	80	27920	20/10	5
hlq.ASEASAMP	ELS	PO-E	FB	80	27920	20/10	5
hlq.ASMZLINK	SMC JES3	PO	U	-	32760	20/10	5
hlq.ALCMLINK	LCM	PO-E	U	-	32760	2504/250	5
hlq.ALCMSAMP	LCM	PO-E	FB	80	27920	25/25	5
hlq.ALCMGUI	LCM	PO	U	-	32760	198/500	5
hlq.ASCSLINK	MVS/CSC	PO	U	-	32760	500/100	100
hlq.ASCSMAC	MVS/CSC	PO-E	FB	80	27920	30/10	5
hlq.ASCSSAMP	MVS/CSC	PO-E	FB	80	27920	30/10	5
hlq.ASLCLINK	LibraryStation	PO	U	-	32760	500/100	50
hlq.ASLCSAMP	LibraryStation	PO-E	FB	80	27920	30/10	5
hlq.ACSSLINK	MVS/CSC LibraryStation	PO	U	-	32760	50/10	20
hlq.ASACLINK	MVS/CSC LibraryStation	PO	U	-	32760	200/10	100

注 – PDSE (Partitioned Data Set Extended) の代わりに PDS を使用する場合は、ASEAMAC のディレクトリブロックを 50 に増やします。

SYSLIB 連結の更新

ELS では、異なるバージョンの MVS/ESA JES3、および複数のテープ管理システム (例えば TLMS と CA-1) がサポートされています。

サンプルメンバー **I50LIB** (SMP/E JCL ライブラリ内) を使用して必要な DDDEF エントリーを SMP/E CSI に追加し、SYSLIB 連結を変更して適切なマクロライブラリを追加します。

I50LIB ジョブは次の手順で実行します。

1. メンバー I50LIB の編集モードに切り替えて、CHGIT コマンドを実行し、CHGIT の編集を適用します。
2. I50LIB ジョブをサブミットします。

このジョブで実行されるすべての手順でリターンコードは 4 以下となります。それ以外のリターンコードが返された場合は、オラクルソフトウェアサポートにお問い合わせください。

注 –

- CHGIT の使用を推奨しますが、使用については任意です。CHGIT を使用しない場合は、I50LIB サンプルメンバーのプロローグにある指示に従って、必要な編集を行い、ジョブをサブミットします。
 - 旧リリースがインストールされている既存のグローバルに ELS 7.1 製品コンポーネントをインストールする場合は、SMPCSI 文が既存のグローバル CSI を指していなければなりません。
-

ELS FMID の検証

ELS は標準の SMP/E フォーマットに収められており、次の SMP/E FMID によって識別される複数の SYStem MODification(SYSMOD) 機能として提供されます。

表 2-5 ELS 7.1 FMID

FMID	説明
SSEA710	HSC、SMC、VTCS および CDRT ロードモジュール、配布マクロ、およびサンプル
SMZ7100	SMC JES3 サポートロードモジュール、配布マクロ、および JES3 リリース 5.2.1、JES3 OS/390 リリース 1.1 以降、または JES3 z/OS リリース 1.0 以降を実行する MVS システムのサンプル
SLM7100	LCM 7.1 ロードモジュール、配布マクロ、およびサンプル
SOC7100	LibraryStation ロードモジュールおよびサンプル
SCS7100	MVS/CSC ロードモジュール、配布マクロ、およびサンプル
SSCR70C	LibraryStation および MVS/CSC に必要な SAS/C 7.0 の選択されたコンポーネント
SSCR70D	LibraryStation および MVS/CSC に必要な SAS/C 7.0 の選択されたコンポーネント

ELS 機能の RECEIVE

ターゲットおよび配布ゾーンへのインストールを予定する機能を RECEIVE するには、SMP/E RECEIVE コマンドの発行が必要です。SMP/E RECEIVE を実行することで、ELS ベーステープまたは CD-ROM から ELS 機能を RECEIVE することができます。

警告 –

- 旧リリースの ELS 製品コンポーネントを含む既存のグローバル SMP/E CSI に ELS 7.1 製品コンポーネントをインストールすると、SMP/E CSI から旧リリースのすべての SYSMODS (SAS/C に関連するものを除く) が削除されます。
 - ELS 7.1 製品コンポーネントのインストールに先立ち、既存のグローバル SMP/E CSI をバックアップすることをお勧めしています。
 - SMPCSI 文が既存のグローバル CSI を指していなければなりません。
- 旧リリースの LibraryStation または MVS/CSC が含まれている既存の グローバル SMP/E CSI に LibraryStation 7.1 または MVS/CSC 7.1 をインストールする場合は、SAS/C 機能 (FMID SSCR70C および SSCR70D) を再インストールする必要はありません。
- 残したい SAS/C 機能を持つほかの StorageTek 製品が含まれているグローバル SMP/E CSI には、LibraryStation 7.1 または MVS/CSC 7.1 およびサポートされる SAS/C 機能をインストールしないでください。インストールすると、予測できない結果が生じる場合があります。

ELS インストールテープからの ELS 機能の RECEIVE

SMP/E JCL ライブラリ内の **I60RCV** サンプルメンバーを使用して、インストールしたい機能に SMP/E RECEIVE を実行します。ELS SMP/E FMID のリストについては、[38 ページの「ELS FMID の検証」](#)を参照してください。

I60RCV ジョブは次の手順で実行します。

1. メンバー I60RCV の編集モードに切り替えて、CHGIT コマンドを実行し、CHGIT の編集を適用します。
2. I60RCV ジョブをサブミットします。

このジョブで実行されるすべての手順でリターンコードは 4 以下となります。それ以外のリターンコードが返された場合は、オラクルソフトウェアサポートにお問い合わせください。

注 – CHGIT の使用を推奨しますが、使用については任意です。CHGIT を使用しない場合は、I60RCV サンプルメンバーのプロローグにある指示に従って、必要な編集を行い、ジョブをサブミットします。

警告 – 旧 リリースがインストールされている既存のグローバルに ELS 7.1 製品コンポーネントをインストールする場合は、SMPCSI 文が既存のグローバル CSI を指していなければなりません。

ELS インストール CD からの ELS 機能の RECEIVE

I60RNET または **I60RNTS** サンプルメンバーを使用して、Unix Systems Services (USS) から ELS 機能に SMP/E RECEIVE を実行します。

- **I60RNET** は、ネットワークサーバーにマウントされた CD-ROM から ELS 機能の RECEIVE を実行します。
- **I60RNTS** は、CD-ROM からロードされた SMPNTS (Network Temporary Store) ディレクトリから、ELS 機能を RECEIVE します。

どちらのメンバーも IBM SMP/E RECEIVE FROMNETWORK コマンドと RECEIVE FROMNTS コマンドを使用します。これらのコマンドの詳細については、IBM SMP/E ドキュメントを参照してください。

I60RNET または **I60RNTS** ジョブは次の手順で実行します。

1. メンバー **I60RNET** または **I60RNTS** の編集モードに切り替えて、CHGIT コマンドを実行し、CHGIT の編集を適用します。
2. **I60RNET** または **I60RNTS** ジョブをサブミットします。

このジョブで実行されるすべての手順でリターンコードは 4 以下となります。それ以外のリターンコードが返された場合は、オラクルソフトウェアサポートにお問い合わせください。

注 – CHGIT の使用を推奨しますが、使用については任意です。CHGIT を使用しない場合は、**I60RNET** または **I60RNTS** サンプルメンバーのプロローグにある指示に従って、必要な編集を行い、ジョブをサブミットします。

警告 –

- 旧リリースがインストールされている既存のグローバルに ELS 7.1 製品コンポーネントをインストールする場合は、SMPCSI 文が既存のグローバル CSI を指していなければなりません。
 - 旧リリースの LibraryStation または MVS/CSC が含まれているグローバル SMP/E CSI に LibraryStation 7.1 または MVS/CSC 7.1 をインストールする場合は、SAS/C 機能 (FMID SSCR70C および SSCR70D) を再インストールする必要はありません。
-

ELS 機能の APPLY

SMP/E JCL ライブラリ内の **I70APP** サンプルメンバーを使用して、適切なターゲットゾーンに ELS 機能をインストールします。

I70APP ジョブは次の手順で実行します。

1. メンバー I70APP の編集モードに切り替えて、CHGIT コマンドを実行し、CHGIT の編集を適用します。
2. I70APP ジョブをサブミットします。

このジョブで実行されるすべての手順でリターンコードは 4 以下となります。それ以外のリターンコードが返された場合は、オラクルソフトウェアサポートにお問い合わせください。

注 –

- CHGIT の使用を推奨しますが、使用については任意です。CHGIT を使用しない場合は、I70APP サンプルメンバーのプロログにある指示に従って、必要な編集を行い、ジョブをサブミットします。
- 実際にAPPLY処理を行う前に、必要に応じてAPPLY CHECKオプションを使用してSMP/E処理に関する問題の有無を調べることもできます。基本機能を正常にインストールするには、あらかじめ検知されたSMP/Eに関する問題をすべて解決しておく必要があります。

警告 –

- 旧リリースがインストールされている既存のグローバルに ELS 7.1 製品コンポーネントをインストールする場合は、SMPCSI 文が既存のグローバル CSI を指していなければなりません。
- 旧リリースの LibraryStation または MVS/CSC が含まれているグローバル SMP/E CSI に LibraryStation 7.1 または MVS/CSC 7.1 をインストールする場合は、SAS/C 機能 (FMID SSCR70C および SSCR70D) を再インストールする必要はありません。

ELS 機能の ACCEPT

SMP/E JCL ライブラリ内の **I80ACC** サンプルメンバーを使用して、適切なターゲットゾーンに ELS 機能をACCEPTします。

I80ACC ジョブは次の手順で実行します。

1. メンバー I80ACC の編集モードに切り替えて、CHGIT コマンドを実行し、CHGIT の編集を適用します。
2. I80ACC ジョブをサブミットします。

このジョブで実行されるすべての手順でリターンコードは 4 以下となります。それ以外のリターンコードが返された場合は、オラクルソフトウェアサポートにお問い合わせください。

注 –

- CHGIT の使用を推奨しますが、使用については任意です。CHGIT を使用しない場合は、I80ACC サンプルメンバーのプロログにある指示に従って、必要な編集を行い、ジョブをサブミットします。
- 実際にACCEPT処理を行う前に、必要に応じてACCEPT CHECKオプションを使用してSMP/E処理に関する問題の有無を調べることもできます。基本機能を正常にインストールするには、あらかじめ検知されたSMP/Eに関する問題をすべて解決しておく必要があります。

警告 –

- 旧リリースがインストールされている既存のグローバルに ELS 7.1 製品コンポーネントをインストールする場合は、SMPCSI 文が既存のグローバル CSI を指していなければなりません。
 - 旧リリースの LibraryStation または MVS/CSC が含まれているグローバル SMP/E CSI に LibraryStation 7.1 または MVS/CSC 7.1 をインストールする場合は、SAS/C 機能 (FMID SSCR70C および SSCR70D) を再インストールする必要はありません。
-

ELS 保守のインストール

概要

この章では、ELS 保守のインストール手順について説明します。

保守のインストールを行う前に、使用している ELS 製品で利用可能な最新の修正サービスについて、オラクルソフトウェアサポートに問い合わせてください。

Oracle へのお問い合わせについては、[13 ページの「ドキュメント、サポート、およびトレーニング」](#)を参照してください。

注 – ELS 製品のインストールおよび保守に際しては MVS Program Binder を使用してください。使用しない場合、link-editing エラーの原因になります。

保守インストールデータセット

SMP/E を使用して ELS 保守 をインストールします。したがって、ELS ベース製品のインストールに使用される SMP/E ターゲットおよび配布ライブラリが必要になります。これらのライブラリの詳細については、[34 ページの「ターゲットおよびディストリビューションライブラリデータセットの割り振り」と、必須の DDDEF エントリ](#)を参照してください。

ELS 修正サービスメディア

ELS 保守は、修正サービステープまたは CD-ROM で配布されます。このテープまたは CD-ROM には次のファイルが含まれています。

表 3-1 ELS 7.1 修正サービステープの内容 (ラベルなしテープ)

ファイル	データセット名	説明
1	PTF	サービス PTF
2	CVR	PTF カバーレターと JCL サンプル
3	SMM	要約データ
4	HOLDDATA	SMP/E HOLDDATA

表 3-2 ELS 7.1 修正サービス CD の内容 (コードディレクトリ)

ファイル	データセット名	説明
1	els71.cvr	PTF カバーレターと JCL サンプル
2	els71.hdd	SMP/E HOLDDATA
3	els71.ptf	サービス PTF
4	els71.smm	要約データ

ELS 保守の SMP/E JCL サンプルのアンロード

ELS 保守のインストールに使用する JCL メンバーのサンプルは、ELS インストール処理時に ELS インストールテープまたは CD-ROM からアンロードされています。詳細については、[29 ページの「SMP/E JCL ライブラリのアンロード」](#)を参照してください。

これらの JCL サンプルはマスモードで保守を行います。または個々の SYSMOD によって保守を行います。

ELS 修正サービス CD-ROM のアンロード

カバーレター、HOLDDATA、PTF、および SUMMARY データを CD-ROM ドライブから MVS ホストにアンロードするには、次の手順に従います。

1. 次の FTP 受け取り側データセットを事前に割り振っておきます。「hlq」を、使用している高レベルの修飾子に変更し、「v.r」を「7.1」にします。

データセット名 ... :hlq.ELSVr.HDD - HOLDDATA
// RECFM=FB,LRECL=80,SPACE=(27920,(30,30))

データセット名 ... :hlq.ELSVr.PTF - PTFs
// RECFM=FB,LRECL=80,SPACE=(27920,(13000,300))

データセット名 ... :hlq.ELSVr.CVR - Cover Letters
// RECFM=FB,LRECL=80,SPACE=(27920,(30,30))

データセット名 ... :hlq.ELSVr.SMM - Summary
// RECFM=FB,LRECL=80,SPACE=(27920,(30,30))

2. サービス CD を CD-ROM ドライブに挿入します。
3. DOS ウィンドウを開き、CD-ROM ドライブに `cd` を実行します。
4. 次のコマンドを入力します。

```
FTP mvshost
User
Password
binary
mput els71.cvr
mput els71.hdd
mput els71.ptf
mput els71.smm
quit
```

`mput` コマンドをこの順序で実行すると、次の CD ファイルがコピーされます。

- els71.cvr
- els71.hdd
- els71.ptf
- els71.smm

コピー先は、MVS システムの次のデータセットとなります。

- hlq.ELS71.CVR
- hlq.ELS71.HDD
- hlq.ELS71.PTF
- hlq.ELS71.SMM

保守の SMP/E RECEIVE

サンプルメンバー MAINTRCF には、FMID ごとに SMP/E RECEIVE 保守を実行するためのサンプル JCL が収められています。

保守を実行するには、サンプルメンバーのプロログに表示されている指示に従い、ジョブをサブミットします。

このジョブで実行するすべてのステップの場合、戻りコードはゼロ (0) であることが必要です。それ以外のリターンコードが返された場合は、オラクルソフトウェアサポートにお問い合わせください。

注 – CD-ROM から SMP/E RECEIVE を実行する場合、次のように MAINTRCF メンバーを変更します。

- *hlq.ELS71.PTF* データセットを指すように、SMPPTFIN DD 文を変更します。
 - *hlq.ELS71.HDD* データセットを指すように SMPHOLD DD 文を変更します。
-

保守の SMP/E APPLY

サンプルメンバー MAINTAPF には、FMID ごとに SMP/E APPLY 保守を実行するためのサンプル JCL が収められています。

必要な修正、および実際の SMP/E APPLY の前に行う SMP/E APPLY CHECK の実行手順については、サンプルメンバーのプロログに表示されている指示に従ってください。ジョブを送信し、保守を適用します。

注 – SMC JES3 FMID が APPLY に含まれる場合、サンプル JCL の APPLY コマンドに ASSEM オプションを指定する必要があります。

保守の SMP/E ACCEPT

注 – 保守の SMP/E ACCEPT の実行は、オプションです。

サンプルメンバー MAINTACF には、FMID ごとに SMP/E ACCEPT 保守を実行するためのサンプル JCL が収められています。

必要な修正、および実際の SMP/E ACCEPT の前に行う SMP/E ACCEPT CHECK の実行手順については、サンプルメンバーのプロログに表示されている指示に従ってください。ジョブを送信し、保守を適用します。

HELD ELS PTF の分離

HOLDSYSTEM 例外データのために適用できなかった PTF を含むものを特定するために、前の項の APPLY の実行による出力結果を確認します。その PTF のカバーレターを確認し、使用している環境にその PTF を適用できるかを判別します。一般に、HOLDSYSTEM で使用する ELS SYSMODS には、次の2つの種類があります。

- テープ管理システムのスクラッチ変換モジュール (SLUDRCA1、SLUDRRMM、SLUDRSMC、SLUDRTLTM、および SLUDRZAR) を更新する SYSMODS
- ELS SMP/E 環境の制御範囲を超えた依存性を持つ SYSMODS例えば、ELS PTF の中には、特殊な MVS PTF の適用が必要なものもあります。適用しないと、自動オペレーティングパッケージを変更しなければなりません。

HOLDSYSTEM例外データのために適用されなかったSYSMODSの確認結果に基づき、次の4つのPTFのリストを作成します。

リスト1

お使いのサイトにインストールされていないテープ管理システムのテープ管理システムPTF

リスト2

使用しているサイトにテープ管理システムがインストールされており、ソースの修正が必要な場合の、テープ管理システム PTF

リスト3

お使いのサイトがPTF カバーレターで定義された条件を満たさないために適用されない非テープ管理システム PTF

リスト4

HOLDSYSTEM 例外データのために保留となっている、そのほかのすべての PTF。これらは、使用しているシステムのインストール状況に適用できない、保留となっている PTF です。含まれるものは、テープ管理システムがお使いのサイトでインストールされるテープ管理システムPTFであり、ソースコードを修正する必要はありません。

適用可能な ELS HOLDSYSTEM SYSMODS の APPLY

次の JCL を使用して、適用可能な HOLDSYSTEM SYSMODS の SMP/E APPLY を実行します。

```
//jobname JOB .....  
//S1      EXEC smpe-proc  
//SMPCNTL DD *  
    SET BDY(target-zone) .  
    APPLY PTFS  
        EXCLUDE(ptf1,ptf2,.....ptfn)  
        GROUPEXTEND  
        FORFMID(  
            /* FMID-id */  
        )  
        BYPASS(HOLDSYSTEM)  
        ASSEM  
        .  
/*
```

注 -

- EXCLUDE された PTF はリスト1、リスト2、およびリスト3のいずれかの PTF に属している必要があります ([47 ページの「HELD ELS PTF の分離」](#)を参照してください)。
 - FMID のリストについては、[38 ページの「ELS FMID の検証」](#)を参照してください。
-

ELS インストール後の作業の実施

概要

この章では、ELS インストール後の作業について説明します。次のトピックがあります。

- ELS ロードライブラリの許可
- SMC インストール後の作業
- HSC インストール後の作業
- JES3 インストール後の作業

注 –

- 次に進む前に、[第 2 章](#)で説明したインストール作業が終了していることを確認してください。
 - VTCS には、インストール後の作業はありません。必要な VTCS 構成タスクについては『*HSC および VTCS の構成*』を参照してください。
-

ELS ロードライブラリの許可

SMC、HSC、および VTCS は、MVS で許可プログラムとして実行する必要があります。したがって、次の手順を実行して、ELS ロードライブラリを APF 許可する必要があります。

1. SYS1.PARMLIB の IEAAPFzz または PROGzz メンバーに ELS ロードライブラリを追加します。
2. [51 ページの「ELS ロードライブラリの APF 許可」](#) に説明されているコマンドを発行してロードライブラリを許可します。

IEAAPFzz メンバーへの ELS ロードライブラリの追加

ELS ロードライブラリを許可するには、IEAAPFzz メンバーに次のエントリを追加します。

```
your.SEALINK volser,
```

このエントリを APF 許可プログラムリストに追加する前に、高位修飾子および volser を、使用するシステムに適した値に編集してください。

IEAAPFzz メンバーに複数のエントリがある場合は、各エントリ (最後のエントリを除く) の末尾にコンマを付けて続きがあることを示します。最後のエントリにはコンマは付けません。

注 – ELS ロードライブラリが SMS 管理対象ボリュームにある場合は、APF 許可されたライブラリエントリにボリュームを指定する必要はありません。この場合、ライブラリが SMS 管理対象であることを示すために、ライブラリ名のあとには何も指定しないでください。間違ったボリュームを指定した場合、そのライブラリは APF 許可**できません**。

PROGzz メンバーへの ELS ロードライブラリの追加

ELS ロードライブラリを許可するには、PROGzz メンバーに次のエントリを追加します。

```
APF ADD
  DSNAME(your.SEALINK)
  VOLUME(volser) | SMS
```

このエントリを APF 許可プログラムリストに追加する前に、高位修飾子および *volser* を、使用するシステムに適した値に編集してください。

注 – ELS ロードライブラリが SMS 管理対象ボリュームにある場合は、APF 許可されたライブラリエントリにボリュームを指定する必要はありません。この場合、ライブラリが SMS 管理対象であることを示すために、当該ライブラリ名の後ろにリテラルで「SMS」を指定します。間違ったボリュームを指定した場合、そのライブラリは APF 許可できません。

ELSロードライブラリの APF 許可

IPL の実行時にライブラリが許可されるよう、IEAAPFzz または PROGzz メンバーにエントリを追加する必要があります。また、稼働中のシステム上にあるライブラリを動的に許可するには、次の MVS システムコマンドを発行します。

ライブラリが SMS 管理対象の場合

```
SETPROG APF,ADD,DSN=your.SEALINK,SMS
```

ライブラリが SMS 管理対象ではない場合

```
SETPROG APF,ADD,DSN=your.SEALINK,volser
```

SMC インストール後の作業の実施

ここでは、必要な SMC インストール後の作業について説明します。次のトピックがあります。

- SMC の MVS サブシステムとしての定義
- MVS LINKLIST ライブラリへの SMCBPREI モジュールのコピーまたは移動
- MVS プログラム属性テーブルの修正
- SMCデータスペースに関する考慮事項

SMC の MVS サブシステムとしての定義

SMC は動的に定義される MVS サブシステムとして実行されます。マスター MVS サブシステムのもとで実行することも、プライマリジョブ入力サブシステムのもとでセカンダリサブシステムとして実行することもできます。

多くの場合、SMC はインストール時に動的に定義されるため、MVS サブシステム名テーブルに追加する必要はありません。

ただし、次の条件に該当する場合、必要に応じて MVS サブシステム名テーブル (SYS1.PARMLIB メンバー IEFSSNzz) に SMC を追加する必要があります。

- SMC とテープ管理システムを同じホストで実行し、テープ管理システムが MVS 動的サブシステムとしても実行されている場合、メッセージ処理の正しい順序を確認するため、サブシステム名テーブルへ、テープ管理システムと SMC の両方を追加してください。53 ページの「テープ管理システムとの相互作用およびサブシステム名テーブル」を参照してください。
- 同じホストで SMC および Unicenter CA-MIA 製品を実行している場合、EDL処理が必ず正しい順番で行われるようにするために、Unicenter CA-MIA および SMC の両方をサブシステム名テーブルに追加してください。54 ページの「Unicenter CA-MIA との相互作用およびサブシステム名テーブル」を参照してください。
- 同じホストで SMC、テープ管理システム、および Unicenter CA-MIA 製品を実行している場合、これらの3つをサブシステム名テーブルに追加してください。54 ページの「SMC、TMS、Unicenter CA-MIA 間の相互作用およびサブシステム名テーブル」を参照してください。
- マスター MVS サブシステム (プライマリジョブ入力サブシステムではなく) のもとで SMC を実行する場合、SMC をサブシステム名テーブルに追加してください。55 ページの「MSTR およびサブシステム名テーブルのもとでの SMC の実行」を参照してください。

また、SMC START手順を含むPROCLIBは、マスターアドレス空間のPROCLIB連結に存在しなければなりません。この連結はDD IEFPSIの下
SYS1.PARMLIB(MSTJCLzz)で定義されます。

テープ管理システムとの相互作用およびサブシステム名テーブル

テープ管理システム (TMS) を実行している場合、必ず SMC の前に MVS マウントメッセージが処理されるようにする必要があります。このため、(TMS) エントリが SMC エントリの前に来るように、テープ管理システムおよび SMC をサブシステム名テーブルに追加する必要があります。次の例では、CA-1 リリース 5.1 以降および SMC のエントリを示しています。

SUBSYS SUBNAME (JES2) PRIMARY (YES) START (NO)
SUBSYS SUBNAME (TMS)
SUBSYS SUBNAME (SMC0) INITRTN (SMCBPREI)

テープ管理システムを同じホストにインストールする場合、テープ管理システムおよび SMC の両方をサブシステム名テーブルに追加することをお勧めしています。

次のテーブルは、両方が動的サブシステムである場合、テープ管理システムと SMC のサブシステム名定義シナリオを示します。

SMC がサブシステム名 テーブルに定義されて いるか	TMS がサブシステム名 テーブルに定義されて いるか	生じる結果
YES	YES	サポートおよび推奨されます。テーブル中、TMS は SMC の前になければなりません。
YES	NO	サポートされません。TMS は SMC の前に MVS マウントメッセージの処理を実行できません。
NO	YES	サポートされるが 推奨されません 。SMC は必ずTMSの後に起動しなければなりません。

注 – 55 ページの「サブシステム名テーブルの SMC に関する修正についての注意」を参照してください。

Unicenter CA-MIA との相互作用およびサブシステム名テーブル

同じホストで Unicenter CA-MIA 製品を実行している場合、Computer Associates では、Unicenter CA-MIA の定義の前に、SMC を定義し、Unicenter CA-MIA および SMC の両方をサブシステム名テーブルに追加することをお勧めしています。次の例では、SMC および Unicenter CA-MIA のエントリを示しています。

```
SUBSYS SUBNAME(JES2) PRIMARY(YES) START(NO)
SUBSYS SUBNAME(SMC0) INITRTN(SMCBPRI)
SUBSYS SUBNAME(MIA)
```

Unicenter CA-MIA の互換性を実現するには、SMC での ALLOCDEF MIACOMPAT(ON) オプションの指定も必要です。ALLOCDEF コマンドについては、『ELS コマンド、制御文、およびユーティリティーリファレンス』を参照してください。

注 – 55 ページの「サブシステム名テーブルの SMC に関する修正についての注意」を参照してください。

SMC、TMS、Unicenter CA-MIA 間の相互作用およびサブシステム名テーブル

同じホストで SMC、テープ管理システム (TMS)、および Unicenter CA-MIA 製品すべてを実行している場合、これらの 3 つの製品すべてを、次の例に示した順番でサブシステム名テーブルに追加してください。

```
SUBSYS SUBNAME(JES2) PRIMARY(YES) START(NO)
SUBSYS SUBNAME(TMS)
SUBSYS SUBNAME(SMC0) INITRTN(SMCBPRI)
SUBSYS SUBNAME(MIA)
```

Unicenter CA-MIA の互換性を実現するには、SMC での ALLOCDEF MIACOMPAT(ON) オプションの指定も必要です。ALLOCDEF コマンドについては、『ELS コマンド、制御文、およびユーティリティーリファレンス』を参照してください。

注 – 55 ページの「サブシステム名テーブルの SMC に関する修正についての注意」を参照してください。

MSTR およびサブシステム名テーブルのもとでの SMC の実行

プライマリジョブ入力サブシステムではなく、MSTR サブシステムのもとで SMC を実行する場合は、次のエントリをサブシステム名テーブルに追加して、SMC サブシステム名を識別する必要があります。

SUBSYS SUBNAME (SMC0)

使用している1次ジョブ入力サブシステムがJES3である場合、SMCをMSTRのもとで実行することはできず、JES3のもとで実行する必要があります。

SMCサブシステムがMSTRのもとで実行される場合、SMC START 手順でPARMパラメータのMSTRオプションも含める必要があります。SMC START手順の作成については、『SMC の構成と管理』を参照してください。

MSTR のもとで実行できるように SMC をサブシステム名テーブルに追加するもうひとつの方法は、MVS 起動コマンドの SUB=MSTR パラメータを使用して SMC サブシステムを起動する方法です。SMC START手順の実行については、『SMC の構成と管理』を参照してください。

サブシステム名テーブルの SMC に関する修正についての注意

- SUBNAME (名) パラメータは、SMC START 手順名と一致する 1 - 4 文字の名前を指定します。SUBNAME (名) パラメータで指定した SMC サブシステム名が SMC START プロシージャの名前に合っていない場合は、START 手順の PARM パラメータに SYSS オプションを追加する必要があります。SMC START手順の作成については、『SMC の構成と管理』を参照してください。
- 定位置指定形式ではなく、SUBSYS コマンドのキーワード形式を使用する必要があります。サブシステム名の定義についての詳細は、IBM z/OS の資料を参照してください。
- サブシステム名を動的に定義していない場合、SMC サブシステム名のエントリを有効にするには、MVS ホストシステムの IPL を実行する必要があります。
- Unicenter CA-MIA サブシステム名をサブシステム名テーブルに追加した場合は、次のいずれかの状態でなくてはなりません。
 - このサブシステムを使用する開始タスクは、マスターアドレス空間のPROCLIB連結に存在することが必要です。この連結はDD IEFPSIの下
SYS1.PARMLIB(MSTJCLzz)で定義されます。
 - Unicenter CA-MIAのStartコマンドではSUB=JES2が指定される必要があります。
たとえば、S CAMIA,SUB=JES2 です。

MVS LINKLIST ライブラリへの SMCBPREI モジュールのコピーまたは移動

SMC をセカンダリ MVS サブシステムとして実行する場合、SMCLINK ライブラリに常駐する SMC サブシステムの事前初期設定ルーチンモジュール (SMCBPREI) は、MVS LINKLIST ライブラリにも入っていない必要があります。SMCBPREI モジュールを SMCLINK ライブラリから LINKLIST ライブラリにコピーまたは移動することができます。

SMCBPREI 事前初期設定ルーチンモジュールは、SMC の各リリース間で、機能の互換性があります。ただし、それ以上の互換性については、SMCBPREI 事前初期設定モジュールの最新のリリースを使用してください。

MVS プログラム属性テーブルへの SMC の追加

MVS プログラム属性テーブル (PPT) を修正して、SMC サブシステムに関するエントリーを追加する必要があります。

SYS1.PARMLIB のメンバー SCHEDzz に次のエントリーを追加します。

PPT PGMNAME (SMCBINT) , PRIV, SYST, KEY (3)

注 -

- SMC の実行には、(1-7) のローキーを使用します。この節の例では、キー 3 を使用します。キー 8 - 15 を使用すると、予期しない結果が発生します。
- SCHEDzz メンバーの修正後、IPL または動的な変更を実行しなければなりません。

SMC データスペースに関する考慮事項

SMC は、SCOPE=COMMON のデータスペースを使用して相互アドレス空間通信を実行します。IEASYSzz メンバーの MAXCAD パラメータが、SMC を示すように MVS で適切に設定されていることを確認してください。このパラメータは、MVS システムで使用できる共通のデータスペースの数を制御します。

詳細については、IBM z/OS の資料を参照してください。

HSC インストール後の作業の実施

必要な HSC インストール後の作業について説明します。次のトピックがあります。

- HSC の MVS サブシステムとしての定義
- HSC ユーザー出口ライブラリの許可
- MVS LINKLISTライブラリへのSLSBPREIモジュールのコピーまたは移動
- MVS プログラム属性テーブルへの HSC の追加
- HSC および VTCS の SMF パラメータの追加
- SLUCONDB (スクラッチ変換) モジュールの再アセンブル

HSCのMVS サブシステムとしての定義

HSC は、マスター MVS サブシステムのもとで実行することも、プライマリジョブ入力サブシステムのもとでセカンダリサブシステムとして実行することもできます。

- HSC をマスター MVS サブシステムとして実行する場合、サブシステム名を特定するために、サブシステム名テーブル (SYS1.PARMLIBのIEFSSNzzメンバー) に 1 行追加する必要があります。これは、HSC スタートアップ手順の手順名に対応する、1-4 文字の名前です。
- HSC をセカンダリ MVS サブシステムとして実行する場合は、サブシステム名テーブル (SYS1.PARMLIBのIEFSSNzzメンバー) に 1 行追加して、以下を特定する必要があります。
 - サブシステム名。HSC START プロシージャ名に対応する 1-4 文字の名前です。
 - HSCサブシステム初期設定ルーチン名。これはSLSBPREIでなければなりません。

HSC サブシステム名を SLS0 とすると、HSC をマスター MVS サブシステムのもとであるいはセカンダリ MVS サブシステムとして実行する場合、HSC をサブシステム名テーブルに正しく追加するには、以下に示す行を追加します。

```
SUBSYS SUBNAME(SLS0) INITRTN(SLSBPRI) /* keyword format */
```

MVS SETSSI コマンドを使用して HSC サブシステム名を動的に定義することも可能です。次に例を示します。

```
SETSSI ADD,SUB=SLS0 /* If running under master subsystem */

or

SETSSI ADD,SUB=SLS0,INITRTN=SLSBPREI
/* If running as secondary subsystem */
```

ここでは、SLS0 は HSC サブシステム名、SLSBPREI は HSC サブシステム初期設定ルーチンです。

注 –

- サブシステム名テーブルで指定した HSC サブシステム名が HSC START タスク手順の名前に合っていない場合は、START プロシーチャーの PARM パラメータに SYSS オプションを追加する必要があります。HSC 起動手順の作成については、『HSC および VTCS の構成』を参照してください。
 - HSCサブシステム名を動的に定義していない場合、HSCサブシステム名のエンTRIESを有効にするには、MVSホストシステムのIPLを実行する必要があります。
 - MVS メッセージ処理の実行中は、HSC にはテープ管理システムとの相互作用はありません。このため、HSC サブシステムおよびテープ管理サブシステムの定義の順番は意味がありません。ただし指定された場合は、SMCサブシステムの定義はテープ管理システムのエンTRIESの後でなくてはなりません。
 - サブシステム名の定義についての詳細は、IBM z/OS の資料を参照してください。
-

HSC ユーザー出口ライブラリの許可

HSC ユーザー出口ライブラリは、HSC ロードライブラリと同じライブラリでも、異なるライブラリでも許可されます。HSC ユーザー出口ライブラリが別のライブラリの場合は、次の手順を実行して、ユーザー出口ロードライブラリを APF 許可する必要があります。

1. SYS1.PARMLIB の IEAAPFzz または PROGzz メンバーに HSC ユーザー出口ロードライブラリを追加します。
2. [59 ページの「HSC ユーザー出口ロードライブラリの許可」](#)に説明されているコマンドを発行してロードライブラリを許可します。

IEAAPFzz メンバーへの HSC ユーザー出口ロードライブラリの追加

HSC ユーザー出口ロードライブラリを許可するには、IEAAPFzz メンバーに次のエンTRIESを追加します。

```
your.SEALINK      volser,
your.HSC_USEREXIT.LOAD      volser,
```

このエンTRIESを APF 許可プログラムリストに追加する前に、高位修飾子および volser を、使用するシステムに適した値に編集してください。

IEAAPFzz メンバーに複数のエンTRIESがある場合は、各エンTRIES (最後のエンTRIESを除く) の末尾にコンマを付けて続きがあることを示します。最後のエンTRIESにはコンマは付けません。

注 – HSC ユーザー出口ロードライブラリが SMS 管理対象ボリュームにある場合は、APF 許可されたライブラリエンTRIESにボリュームを指定する必要はありません。この場合、ライブラリが SMS 管理対象であることを示すために、ライブラリ名のあとには何も指定しないでください。間違ったボリュームを指定した場合、そのライブラリは APF 許可できません。

PROGzz メンバーへの HSC ユーザー出口ロードライブラリの追加

HSC ユーザー出口ロードライブラリを許可するには、PROGzz メンバーに次のエントリーを追加します。

```
APF ADD
  DSNAME(your.SEALINK)
  VOLUME(volser) | SMS
APF ADD
  DSNAME(your.HSC_USEREXIT.LOAD)
  VOLUME(volser) | SMS
```

このエントリーを APF 許可プログラムリストに追加する前に、高位修飾子および *volser* を、使用するシステムに適した値に編集してください。

注 – HSC ユーザー出口ロードライブラリが SMS 管理対象ボリュームにある場合は、APF 許可されたライブラリエントリーにボリュームを指定する必要はありません。この場合、ライブラリが SMS 管理対象であることを示すために、当該ライブラリ名の後ろにリテラルで「SMS」を指定します。間違ったボリュームを指定した場合、そのライブラリは APF 許可できません。

HSC ユーザー出口ロードライブラリの許可

IPL の実行時にライブラリが許可されるよう、IEAAPFzz または PROGzz メンバーにエントリーを追加する必要があります。また、稼働中のシステム上にあるライブラリを動的に許可するには、次の MVS システムコマンドを発行します。

ライブラリが SMS 管理対象の場合

```
SETPROG APF,ADD,DSN=your.SEALINK,SMS
```

ライブラリが SMS 管理対象ではない場合

```
SETPROG APF,ADD,DSN=your.SEALINK,volser
```

MVS LINKLIST ライブラリへの SLSBPRI モジュールのコピーまたは移動

HSCを2次MVSサブシステムとして実行する場合、SLSLINKライブラリに常駐するHSCサブシステムの事前初期設定ルーチンモジュール(SLSBPRI)は、MVS LINKLISTライブラリにも入っていない必要があります。SLSBPRI モジュールは、SLSLINK ライブラリから LINKLIST ライブラリにコピーできます。

SLSBPRI 事前初期設定ルーチンモジュールは、HSC の各リリース間で、機能の互換性があります。ただし、それ以上の互換性については、SLSBPRI 事前初期設定モジュールの最新のリリースを使用してください。

MVS プログラム属性テーブルへの HSC の追加

MVSプログラム属性テーブル(PPT)を修正して、HSCサブシステムに関するエントリーを追加する必要があります。

SYS1.PARMLIB のメンバー SCHEDzz に次のエントリーを追加します。

```
PPT PGMNAME(SLSBINIT),PRIV,SYST,KEY(3)
```

注 – HSCの実行には、(1-7の)ローキーを使用します。この節の例では、キー 3 を使用します。キー 8-15 を使用すると、SOC1 や SOC4 の異常終了などの予測不可能な結果が生じます。

HSC および VTCS の SMF パラメータの追加

HSC は、HSC および VTCS イベントの SMF レコードサブタイプを生成できます。これらのレコードのサブタイプを生成するには、SYS1.PARMLIB メンバー SMFPRMzz 内のシステム管理機能 (SMF) パラメータに 2行を追加し、次の項目を指定する必要があります。

- HSC サブシステム名
- HSC 記録間隔を INTERVAL(hhmmss) として指定
値が小さいほどデータの記録頻繁は多くなります。
ライブラリパフォーマンスへの影響を避けるため、指定時間は最低15分 (001500) とするよう強くお勧めしています。VSM をサポートしない HSC システムについては、1 時間間隔 (010000) の指定をお勧めしています。
- HSC SMF 記録タイプ
- HSC/VTCS SMF レコードサブタイプ
HSC および VTCS が生成できるサブタイプの詳細は、『*ELS Programming Reference*』を参照してください。

HSC サブシステム名が SLS0 の場合、HSC および VTCS レコードサブタイプを追加するには、次の行を追加します。

```
SUBSYS(SLS0,INTERVAL(001500),TYPE(255))
SUBPARM(SLS0(SUBTYPE,
(1-8,10,11,13,14,15,16,17,18,19,20,21,25,26,27,28,29,30,31)))
```

注 – SMF オプションで SUBTYPE パラメータを指定しない場合は、HSC がサブタイプ 1-6 を生成します。カートリッジの移動および表示レコードを生成するには、SUBPARM パラメータをコーディングし、サブタイプ 7 と 8 を組み込む必要があります。

TMS インタフェース (SLUDR*) ルーチンの再アセンブル

使用しているテープ管理システムと関連リリースレベルによっては、HSC SLUCONDB ユーティリティおよび SMC SMCUDBX ユーティリティによって呼び出される TMS (テープ管理システム) インタフェース (SLUDR*) ルーチンを再アセンブルしなければならない場合があります。これらのルーチンにローカルで修正を加えている場合も、再アセンブルが必要です。これらのルーチンは、ELS のインストール中に生成された SEALINK ライブラリに含まれています。

注 -

- TMS インタフェースルーチンのソースは ELS 7.0 で変更されました。SLUDR* に一致する名前を持つモジュールにローカルで修正を加えた場合は、ELS 7.0/7.1 ソースをローカルの変更内容で修正して再アセンブルする**必要があります**。旧バージョンの SLUDR* モジュールは、SLUCONDB の ELS 7.0/7.1 バージョンに**対応していません**。
 - SLUCONDB および SMCUDBX ユーティリティ、および TMS インタフェースルーチンの詳細については、『ELS コマンド、制御文、およびユーティリティリファレンス』を参照してください。
 - スクラッチ更新 (SLUCONDB) ユーティリティの詳しい再アセンブル要件については、『HSC および VTCS の管理』を参照してください。
-

JES3インストール後の作業の実施

ここでは、TAPE SETUP 処理を実行する JES3 環境に必要なインストール後の作業について説明します。次のトピックがあります。

- SMC のための SMCERSLV のアセンブルおよびリンク編集
- SMC JES3 ロードライブラリの許可
- SMC Type 1 の修正の作成およびインストール
- SMC のための JES3 IATUX09 ユーザー修正の作成およびインストール
- SMC のための JES3 IATUX71 ユーザー修正の作成およびインストール

SMC のための SMCERSLV のアセンブルおよびリンク編集

ASSEM オプションとともに SMC JES3 サポート機能をインストールした場合、SMCERSLV モジュールのリンク編集およびアセンブリは自動的に実行されています。SMCERSLV モジュールは、SMC に必要なJES3マクロフィールドの正しいオフセットおよび長さを取得します。

SMCERSLVモジュールのアセンブリーおよびリンク編集を初めて実行した後は、IBM保守がJES3マクロに適用される度にこれらのモジュールを手動で再アセンブルする必要があります。JES3 マクロに変更があった場合、SMC SAMPLIBのSMCJRSLV メンバーを実行して SMCERSLV を再アセンブルするようにできます。

SMCJRSLV ライブラリメンバーは、MVS/JES3 ターゲットおよび配布ゾーンに対して実行されます。SMCJRSLV ジョブのプロログに記載の指示に従い、必要な修正を行い、ジョブを実行します。

注 – SMCERSLV モジュールの再アセンブルには SMCJRSLV ライブラリメンバーを使用することを強くお勧めしています。JES3 マクロへの保守の適用後に SMCERSLV モジュールの再アセンブルを実行しないと、SMC の予測できない動作が起こる可能性があります。

SMC JES3 ロードライブラリの許可

SMCおよび JES3 のためのロードモジュールのアクセス

SMC JES3 ロードライブラリ内のすべてのロードモジュールが JES3 アドレス空間にアクセスできなければなりません。したがって、次の手順を実行して、SMC JES3 ロードライブラリを APF 許可する必要があります。

1. SYS1.PARMLIB の IEAAPFzz または PROGzz メンバーに SMC JES3 ロードライブラリを追加します。
2. [64 ページの「SMC JES3 ロードライブラリの APF 許可」](#) に説明されているコマンドを発行してロードライブラリを許可します。

注 –

- JES3 の「ホットスタート」で、上記のモジュールをアクティブにする必要があります。
 - IATIIP1のType 1の修正のNOSMCパラメータをPROMPTに設定すると、モジュールSMCERSLVはJES3アドレス空間にアクセスできます。この変更については、[65 ページの「SMC Type 1 の修正の作成およびインストール」](#)を参照してください。
 - モジュールSMCERSLVはSMCアドレス空間にアクセスできることが必要です。このモジュールは、SMZ6200 FMID のインストール先の SMCLINK ライブラリに自動的にアセンブルされます。
-

IEAAPFzz メンバーへの SMC JES3 ロードライブラリの追加

SMC JES3 ロードライブラリを許可するには、IEAAPFzz メンバーに次のエントリを追加します。

```
your.SMZLINK volser,
```

このエントリを APF 許可プログラムリストに追加する前に、高位修飾子および volser を、使用するシステムに適した値に編集してください。

IEAAPFzz メンバーに複数のエントリがある場合は、各エントリ (最後のエントリを除く) の末尾にコンマを付けて続きがあることを示します。最後のエントリにはコンマは付けません。

注 – SMC JES3 ロードライブラリが SMS 管理対象ボリュームにある場合は、APF 許可されたライブラリエントリにボリュームを指定する必要はありません。間違ったボリュームを指定した場合、そのライブラリは APF 許可**できません**。

PROGzz メンバーへの SMC JES3 ロードライブラリの追加

SMC JES3 ロードライブラリを許可するには、PROGzz メンバーに次のエントリを追加します。

```
APF ADD
    DSNAME(your.SMZLINK)
    VOLUME(volser)
```

このエントリを APF 許可プログラムリストに追加する前に、高位修飾子および *volser* を、使用するシステムに適した値に編集してください。

注 – SMCJES3 ロードライブラリが SMS 管理対象ボリュームにある場合は、APF 許可されたライブラリエントリにボリュームを指定する必要はありません。間違ったボリュームを指定した場合、そのライブラリは APF 許可**できません**。

SMC JES3 ロードライブラリの APF 許可

IPL の実行時にライブラリが許可されるよう、IEAAPFzz または PROGzz メンバーにエントリを追加する必要があります。また、稼働中のシステム上にあるライブラリを動的に許可するには、次の MVS システムコマンドを発行します。

ライブラリが SMS 管理対象の場合

```
SETPROG APF,ADD,DSN=your.SMZLINK,SMS
```

```
SETPROG APF,ADD,DSN=your.SMZLINK,SMS
```

ライブラリが SMS 管理対象ではない場合

```
SETPROG APF,ADD,DSN=your.SMZLINK,volser
```


SMC Type 1 の修正の作成およびインストール

TAPE SETUP処理を実行するJES3環境では、特定のJES3モジュールに対するType 1の修正の作成およびSMP/Eインストールが必要です。

注 – 現在 HSC、MVS/CSC、または以前のリリースの SMC が実行されている MVS/JES3 システム上で SMC を実行しようとする場合は、既存の Type 1 の修正を削除し、SMC Type 1 の修正を作成してインストールする必要があります。

SMC Type 1 の修正の作成

SMCEHOOK マクロを使用し、次の JES3 モジュールのそれぞれに対して SMC Type 1 の修正を作成します。

IATIICM (省略可能)

JES3 モジュール IATIICM に対する Type 1 の修正により、SMC は、JCL DD 文に指定されている場合、DFSMS DATACLAS の記録技法とメディアの値を取り出せるようになります。JCL DD 文に DATACLAS が指定されるようにインストールしている場合に限

り、これらの修正をインストールしてください。

IATIIP1 (必須)

JES3 モジュール IATIIP1 に対する Type 1 の修正により、SMC でデバイス分離が可能になります。SMCEHOOK マクロは、IATIIP1 モジュールのACALL を提供しています。このモジュールにより、SMCがデータセットボリュームの常駐個所を判別し、また、ジョブの中間ジョブサマリーテーブル(IJS) でボリュームの位置に基づいたエソテリック名の置換を行います。次に、JES3 はそのジョブに対するジョブサマリーテーブル (JST) を作成します。これは、デバイス設定の変更およびボリューム取り出し処理に使用されるものです。この Type 1 の修正は必須です。

SMCEHOOKマクロのNOSMCパラメータをコード化して、C/I処理が行われた際に SMCがアクティブになっていない場合のJES3 C/Iによる処理を示します。SMCがまだ初期化されていない場合にJES3割り振りを続行するかどうかに基づき、パラメータ値を選択します。使用できる値および処理は、次のリストのとおりです。

NOSMC 値	処理
NOSMC=PROMPT	C/I プロセスは、SMC を起動して SMC の初期化が終了するまで待機するよう、オペレータに応答します。
NOSMC=NONE	C/Iプロセスは、StorageTekテープサブシステムなしで続行されます。

IATMDAL (必須)

JES3 モジュール IATMDAL に対する Type 1 の修正により、SMC でデバイス設定の変更ができるようになります。SMCEHOOK マクロは IATMDAL モジュールに ACALL を提供します。これにより、SMC は、ボリュームを格納するもっとも近い LSM に (指定要求)、または最大数のスクラッチボリュームを格納する LSM に (非指定要求)、トランスポートの指定割り振りを行います。ジョブに対して作成された JST は、デバイス設定の変更およびボリューム取り出し処理に使用されます。この Type 1 の修正は必須です。

SMCEHOOK マクロの TASKID パラメータをコード化して、デバイス設定の変更のためのタスク ID を示します。使用できる値は151から255までの範囲です。デフォルト値は203 です。

IATMDFE (省略可能)

JES3 モジュール IATMDFE に対する Type 1 の修正により、SMC は、動的な割り振りの間にライブラリカートリッジトランスポートのオペレータ介入メッセージを抑止することができます。介入メッセージを抑止したい場合にこの修正をインストールします。ユーザー修正はオプションです。

SMC Type 1 の修正のインストール

SMCEHOOKマクロのプロログには、この使用に関する手順の詳細が表示されています。SMCEHOOK マクロは SMC MAC ライブラリに常駐します。

SMC サンプルメンバーSMCUIICM、SMCUIIP1、SMCUMDAL、および SMCUMDFE には、SMC JES3 Type 1 の修正の例が表示されています。

JES3 モジュールに SMC Type 1 の修正を作成した後は、Type 1 の修正の SMP/E インストールをする必要があります。SMC SAMPLIB の SMCJTYP1 メンバーを使用して、IATIICM、IATIIP1、IATMDAL、および IATMDFE に対する SMC Type 1 の修正の SMP/E インストールを行います。次の図は、SMCJTYP1 メンバーに含まれる JCL を示しています。

```
//jobname JOB .....
//INSTTYP1 EXEC PGM=GIMSMP,REGION=4096K
//SMPCSI DD DSN=your.jes3.global.csi,DISP=SHR
//SMPPTFIN DD DSN=your.usermods,DISP=SHR
//SMPHOLD DD DUMMY
//SMPCNTL DD *
  SET BDY(GLOBAL) .
  RECEIVE S(
    LUSIICM
    LUSIIP1
    LUSMDAL
    LUSMDFE
  ) .
  SET BDY(jes3-target-zone) .
  APPLY S(
    LUSIICM
    LUSIIP1
    LUSMDAL
    LUSMDFE
  ) .
/*
```

図 4-1 SMCJTYP1 JCL

次の手順を実行します。

1. SMC SAMPLIB の作業コピーを示す新規データセットを割り振ります。独自の命名規則を使用し、LRECL、RECFM、および DSORG には元の SMC SAMPLIB と同じ値を指定します。

注 – 元の SMC SAMPLIB は編集しないでください。

2. SMC SAMPLIB メンバーの SMCUIIP1 と SMCUMDAL を、手順 1 で割り振りしたデータセットにコピーします。この2つのメンバーの最初に表示されている修正を実行します。

注 – 手順 2 - 4 で説明されるこのデータセットの編集に際しては、行番号の設定を OFF にする必要があります。

3. IATIICM に対する修正が使用しているシステムに適しているかを判断します。適している場合は、SMC SAMPLIB メンバーの SMCUIICM を手順 1 で割り振りしたデータセットにコピーします。このメンバーに表示されている修正を実行します。
4. IATMDFE に対する修正が使用しているシステムに適しているかを判断します。適している場合は、SMC SAMPLIB メンバーの SMCUMDFE を手順1で割り振りしたデータセットにコピーします。このメンバーに表示されている修正を実行します。
5. SMC SAMPLIB の SMCJTYP1 メンバーを編集します。
 - 使用しているシステムのローカル標準に合うよう、JOB カードを変更します。
 - *your.jes3.global.csi*を、使用しているシステムの JES3 グローバル CSI の名前に変更します。
 - *your.usermods* を手順 1 で割り振りしたデータセットの名前に変更します。
 - *jes3-target-zone*を JES3 SMP/E ターゲットゾーン名に変更します。
 - IATIICMに対する修正のインストールを行わない場合は、RECEIVEおよびAPPLY文からLUSIICMを削除します。
 - IATMDFEに対する修正のインストールを行わない場合は、RECEIVEおよびAPPLY文からLUSMDFEを削除します。
6. ジョブをサブミットします。

SMCのJES3 IATUX09ユーザー出口の修正の作成 およびインストール

マウントのデファーク処理およびライブラリボリュームのオペレータ取り出しメッセージの抑止を可能にする場合は、JES3 IATUX09 ユーザー出口の修正の作成およびSMP/E インストールが必要です。

SMC の JES3 IATUX09 ユーザー出口の修正の作成

共通の割り振りの間にマウントのデファーク処理およびライブラリボリュームのオペレータ取り出しメッセージの抑止を実行する場合は、JES3 IATUX09 ユーザー出口のソースおよびユーザー修正の作成が必要です。

JES3 IATUX09 ユーザー出口の修正により、ライブラリカートリッジトランスポートのオペレータ介入メッセージの抑止が可能になり、マウント処理機能のデファーク処理ができるようになります。ユーザー出口を使用するかどうかはオプションです。ただし、共通の割り振りの間にマウントのデファーク処理およびライブラリボリュームのオペレータ取り出しメッセージの抑止を実行する場合には、インストールする必要があります。

インストールの実行によりすでに JES3 ユーザー出口 IATUX09 を使用している場合は、既存のユーザー出口の名前を変更し、「&OLDUX09」のラベルの付いた SETC のオペランドフィールドに新しいロードモジュールの名前を指定します。サンプルユーザー出口 SMC3UX09 のラベル「&OLDUX09」の付いた SETC を参照してください。

ソースの例は SMC のサンプルメンバー SMC3UX09 に、ユーザー修正の例は SMC SAMPLIBのSMCUUX09 メンバーにあります。

SMC の JES3 IATUX09 ユーザー出口の修正のインストール

JES3 IATUX09 ユーザー出口の修正を作成した後、そのユーザー出口の修正のSMP/E インストールが必要です。JES3 ユーザー出口の修正の SMP/E インストールを実行するには、サンプルライブラリメンバーSMCJUX09を使用します。

次の図は、SMCJUX09 に含まれるJCLを示しています。

```
//jobname JOB .....
//INSTUX09 EXEC PGM=GIMSMP,REGION=4096K
//SMPCSI DD DSN=your.jes3.global.csi,DISP=SHR
//SMPPTFIN DD DSN=your.usermods,DISP=SHR
//SMPHOLD DD DUMMY
//SMPCNTL DD *
SET BDY (GLOBAL) .
RECEIVE S (
    LUSUX09
) .
SET BDY (jes3-target-zone) .
APPLY S (
    LUSUX09
) .
/*
```

図 4-2 SMCJUX09 JCL

次の手順を実行します。

1. SMC SAMPLIB の作業コピーを示す新規データセットを割り振ります。独自の命名規則を使用し、LRECL、RECFM、および DSORG には元の SMC SAMPLIB と同じ値を指定します。67 ページの「SMC Type 1 の修正のインストール」に従ってデータセットがすでに割り振られている場合は、そのデータセットを使用できます。

注 – 元の SMC SAMPLIB は編集しないでください。

2. SMC SAMPLIB メンバーの SMCUUX09 と SMC3UX09 を手順 1 で割り振りしたデータセットにコピーします。

SMCUUX09 の最初に表示されている手順を確認し、必要な修正を実行します。

注 – すでにIATUX09を使用している場合は、既存のユーザー出口の修正の名前の変更が必要です。

3. SMC SAMPLIB メンバーの SMCJUX09 を編集します。
 - 使用しているシステムのローカル標準に合うよう、JOB カードを変更します。
 - *your.jes3.global.csi*を、使用しているシステムの JES3 グローバル CSI の名前に変更します。
 - *your.usermods*を手順 1 で割り振りしたデータセットの名前に変更します。
 - *jes3-target-zone*を JES3 SMP/E ターゲットゾーン名に変更します。
4. ジョブをサブミットします。

SMC の JES3 IATUX71 ユーザー出口の修正の作成 およびインストール

ライブラリボリュームのJES3 マウントメッセージ(IAT5210) の処理を可能にする場合は、JES3 IATUX71 ユーザー出口の修正の作成およびSMP/E インストールが必要です。

SMC の JES3 IATUX71 ユーザー出口の修正の作成

ライブラリボリュームのJES3マウントメッセージの処理を可能にする場合は、JES3 IATUX71ユーザー出口のソースおよびユーザー修正の作成が必要です。

JES3 IATUX71 ユーザー出口の修正により、JES3 マウントメッセージ IAT5210 に応じて必要なボリュームのマウントが可能になります。ユーザー修正はオプションです。ただし、ライブラリサブシステムのポリシーがマウントのデファー処理を要求しない場合、ライブラリボリュームのJES3マウントメッセージの処理を可能にするには、このユーザー出口をインストールする必要があります。HSC に関しては、ALLOC コマンドパラメータ DEFER を OFF に設定しておく、マウントのデファー処理は要求されません。MVS/CSC に関しては、DEFER 起動パラメータを NO に設定するか、ALTER コマンドでその値を NO にリセットすると、マウントのデファー処理は要求されません。

ユーザー出口の修正の例は、SMC のサンプルメンバー SMCUUX71 にあります。

SMC の JES3 IATUX71 ユーザー出口の修正のインストール

JES3 IATUX71 ユーザー出口の修正を作成した後、そのユーザー出口の修正のSMP/E インストールが必要です。JES3 ユーザー出口の修正の SMP/E インストールを実行するには、サンプルライブラリメンバー SMCJUX71 を使用します。

次の図は、SMCJUX71 に含まれる JCL を示しています。

```
//jobname JOB .....
//INSTUX71 EXEC PGM=GIMSMP,REGION=4096K
//SMPCSI DD DSN=your.jes3.global.csi,DISP=SHR
//SMPPTFIN DD DSN=your.usermods,DISP=SHR
//SMPHOLD DD DUMMY
//SMPCNTL DD *
    SET BDY(GLOBAL) .
    RECEIVE S(
        LUSUX71
    ) .
    SET BDY(jes3-target-zone) .
    APPLY S(
        LUSUX71
    ) .
/*
```

図 4-3 SMCJUX71 JCL

次の手順を実行します。

1. SMC SAMPLIB の作業コピーをとなる新規データセットを割り振ります。独自のデータセット命名規則を使用し、このデータセットを RECFM=FB、DSORG=PS、LRRECL=80 として割り振ります。67 ページの「SMC Type 1 の修正のインストール」に従ってデータセットがすでに割り振られている場合は、それを使用できます。

注 – 元の SMC SAMPLIB は編集しないでください。

2. SMC SAMPLIB メンバーの SMCUUX71 と SMC3UX71 を手順 1 で割り振りしたデータセットにコピーします。70 ページの「SMC の JES3 IATUX71 ユーザー出口の修正の作成およびインストール」の手順に従い、SMC3UX71 の最初の指示を確認し、必要な修正を実行します。

注 – すでに IATUX71 を使用している場合は、既存のユーザー出口の修正の名前の変更が必要です。

3. SMC SAMPLIB メンバーの SMCJUX71 を編集します。
 - 使用しているシステムのローカル標準に合うよう、JOB カードを変更します。
 - *your.jes3.global.csi* を、使用しているシステムの JES3 グローバル CSI の名前に変更します。
 - *your.usermods* を手順 1 で割り振りしたデータセットの名前に変更します。
 - *jes3-target-zone* を JES3 SMP/E ターゲットゾーン名に変更します。
4. ジョブをサブミットします。

ELS 追加ソフトウェアのインストール 後の作業の実施

概要

この章では、ELS パッケージに含まれている追加メインフレームソフトウェアのインストール後の作業について説明します。次のトピックがあります。

- LCM インストール後の作業
- MVS/CSC インストール後の作業
- LibraryStation インストール後の作業

注 – 次に進む前に、[第 2 章](#)で説明したインストール作業が終了していることを確認してください。

LCM インストール後の作業

必要な LCM インストール後の作業について説明します。次のトピックがあります。

- LCM ロードライブラリの許可
- EDI からの HSC CDS の除外
- LCM インストールの検証
- LCM Agent のインストールおよび構成 (省略可能)
- LCM Explorer のインストール (省略可能)

LCM ロードライブラリの許可

LCM は MVS で許可プログラムとして実行する必要があります。したがって、次の手順を実行して、LCM ロードライブラリを APF 許可する必要があります。

1. SYS1.PARMLIB の IEAAPFzz または PROGzz メンバーに LCM ロードライブラリを追加します。
2. [75 ページの「LCM ロードライブラリの APF 許可」](#) に説明されているコマンドを発行してロードライブラリを許可します。

IEAAPFzz メンバーへの LCM ロードライブラリの追加

LCM ロードライブラリを許可するには、IEAAPFzz メンバーに次のエントリを追加します。

```
your.LCMLINK volser,
```

このエントリを APF 許可プログラムリストに追加する前に、高位修飾子および volser を、使用するシステムに適した値に編集してください。

IEAAPFzz メンバーに複数のエントリがある場合は、各エントリ (最後のエントリを除く) の末尾にコンマを付けて続きがあることを示します。最後のエントリにはコンマは付けません。

注 – LCM ロードライブラリが SMS 管理対象ボリュームにある場合は、APF 許可されたライブラリエントリにボリュームを指定する必要はありません。この場合、ライブラリが SMS 管理対象であることを示すために、ライブラリ名のあとには何も指定しないでください。間違ったボリュームを指定した場合、そのライブラリは APF 許可できません。

PROGzz メンバーへの LCM ロードライブラリの追加

LCM ロードライブラリを許可するには、PROGzz メンバーに次のエントリを追加します。

```
APF ADD
  DSNAME(your.LCMLINK)
  VOLUME(volser) | SMS
```

このエントリを APF 許可プログラムリストに追加する前に、高位修飾子および *volser* を、使用するシステムに適した値に編集してください。

注 – LCM ロードライブラリが SMS 管理対象ボリュームにある場合は、APF 許可されたライブラリエントリにボリュームを指定する必要はありません。この場合、ライブラリが SMS 管理対象であることを示すために、当該ライブラリ名の後ろにリテラルで「SMS」を指定します。間違ったボリュームを指定した場合、そのライブラリは APF 許可できません。

LCM ロードライブラリの APF 許可

IPL の実行時にライブラリが許可されるよう、IEAAPFzz または PROGzz メンバーにエントリを追加する必要があります。また、稼働中のシステム上にあるライブラリを動的に許可するには、次の MVS システムコマンドを発行します。

ライブラリが SMS 管理対象の場合

```
SETPROG APF,ADD,DSN=your.LCMLINK,SMS
```

ライブラリが SMS 管理対象ではない場合

```
SETPROG APF,ADD,DSN=your.LCMLINK,volser
```

EDI からの HSC CDS の除外

z/OS 1.5 以降の Enhanced Data Integrity (EDI) 機能を使用している場合は、HSC CDS のすべてのコピーを EDI 処理から除外する必要があります。詳細については、インストールされているバージョンの『DFSMS: Using Data Sets』を参照するか、z/OS PARMLIB メンバー IFGPSEDI の適切なエントリーを参照してください。

LCM インストールの検証

LCM SAMPLIB メンバーの LCMRUN をカスタマイズして実行し、LCM インストールを検証できます。LCMRUN は、LCM の実行に CHECK オプションを使用します。これにより、LCM によって LSM、HSC データベース、またはテープ管理システムファイルが変更されなくなります。LCM *User's Guide* CHECK オプションの詳細については、を参照してください。LCMRUN は LCM の実行にデフォルト管理技法とデフォルトレポートを使用します。

LCMRUNを呼び出す前に、ジョブを次のように変更します。

- システムの TMC または VMF のデータセット名を指定します。
- LCM と HSC の STEPLIB DD 文で、使用しているシステムのデータセット名が正しく入力されていることを確認します。
- 検証に使用するパラメータファイルの名前を指定します。76 ページの表 5-1 で SAMPLIB メンバー用に指定されているファイルの中から、適切な検証用パラメータファイルを選択します。

注 – 実行を効率化するために、32 MB 以上の領域を割り振ることをお勧めしています。大規模な環境には、より大きな領域を指定する必要がある場合があります。

表 5-1 SAMPLIB メンバーのパラメータファイル

テープ管理システム	SAMPLIB メンバー
CA-1	LCMVCA1
CA-TLMS	LCMVTLMS
DFSMSrmm	LCMVRMM
TMS CUSTOM	LCMVCUST
TMS COMMON	LCMVCOMM
なし	LCMVNTMS

LCM Agent のインストールおよび構成 (省略可能)

ここでは、LCM Agent のインストールおよび構成方法について説明します。LCM Agent は、MVS スターテッドタスクで、共有 DASD を使用せずに複数の MVS ホストから TMS 情報にアクセスできます。基本 LCM プログラムは、HSC と同じ MVS ホスト上で実行され、TCP/IP 経由で各ホスト上の LCM Agent と通信します。LCM Agent の各インスタンスは、自身がサービスを提供している MVS ホスト上でスターテッドタスクとして動作します。

LCM Agent をインストールし構成する前に、このマニュアルの手順に従って LCM 基本プログラムをインストールします。LCM Agent コマンドの詳細については、『LCM User's Guide』を参照してください。

注意 – LCM バッチジョブを実行しているホストと LCM Agent を実行しているホストのバージョンは同じでなければなりません。LCM 4.0 がインストールされているホスト上にある LCM Agent は、LCM 5.0.0 以降がインストールされているホスト上のバッチジョブに対応していません。

LCM Agent をインストールおよび構成するには次の手順を実行します。

1. OS/390 eNetwork Communications Server V2R6 以降の場合は、OpenEdition ルートファイルシステムがインストールされていることを確認します。

LCM Agent を使用するには、OpenEdition ルートファイルが全機能モードでインストールされていなければなりません。HFS ルートファイルの作成方法、BPXPRMxx PARMLIB メンバーの変更方法、およびルートファイルシステムのディレクトリを作成する方法については、『IBM Open Edition Planning Guide』を参照してください。

2. SAMPLIB メンバー LCMCODES をカスタマイズし、LCM Agent アクセスコードデータセットを作成します。

アクセスコードデータセットが、定義済みの各アクセスコードの情報を取得できるよう許可されているホストのリストを指定していることを確認します。LCM Agent アクセスコードデータセットを作成した後、アクセスコードに使用する任意の文字列をデータセットに入力します。また、アクセスコードデータセットが、定義済みの各アクセスコードの情報を取得できるよう許可されているホストのリストを指定していることを確認します。このデータセットの正確なコピーが、LCM Agent ホストと LCM バッチジョブを実行中のホストの両方に存在する必要があります。LCM バッチジョブは、このアクセスコードを使って LCM Agent と通信します。両ホストのアクセスコードが一致していない場合、リモート TMS 情報へのアクセス方法は LCM Agent によって拒否されます。

3. システムセキュリティーソフトウェア (RACF、ACF-2、TopSecret など) を使用して、LCM Agent スターテッドタスクに関連づけられているユーザー ID への参照データセットに READ アクセスします。

これらのデータセットには、手順 2 で作成した LCM Agent アクセスコードデータセットと、LCM Agent がアクセスするすべての TMC が含まれます。

さらに、システムセキュリティーソフトウェアで次のアクセスを許可します。

- アクセスコードの保守担当者によるアクセスコードデータセットへの WRITE アクセス
- LCM ジョブによるアクセスコードデータセットへの READ アクセス

SAMPLIB メンバー LCMAGENT をカスタマイズし、LCM Agent スターテッドタスク手順を作成します。

使用方法の詳細については79 ページの「[LCM Agent スターテッドタスクのパラメータ](#)」を参照してください。

注 –

- LCM Agent スターテッドタスクと基本 LCM プログラムのバッチジョブの両方の JCL にセキュリティコードデータセット (DDname LCMSECUR) を指定する必要があります。次に例を示します。

```
//LCMSECUR DD DSN=<agent access code file>,DISP=SHR
```

- カスタム TMS モジュールインタフェースを使用する場合は、カスタム TMS モジュールを含む正しいロードモジュールを STEPLIB ddname に追加します。
 - 共有環境で複数の Agent を開始する場合は、各 Agent に固有名が付いたダンプデータセットが必要です。
-

4. システム PROCLIB に Agent スターテッドタスク手順をインストールします。
5. LCM バッチジョブの LCM Agent への接続は、次のいずれかの方法によって行います。
 - 次の TMS 文パラメータを LCM ジョブに指定します。
 - CA1 の場合は、LCM Agent の TMS カタログのデータセット名に TMCDSN を付けて識別します。
 - TLMS の場合は、LCM Agent の TMS カタログのデータセット名に VMFDSN を付けて識別します。
 - そのほかの TMS タイプの場合は、LCM Agent の TMS カタログのデータセット名に DSN を付けて識別します。
 - Explorer で、TMS プロパティシート of Access タブを使用します。
6. 手順 6 でデフォルトポート (3002) 以外の値を指定している場合は、TCP/IP ETC.SERVICES ファイルに、使用するポート番号のサービスエントリ (「lcmagent」) を入力します。

次に例を示します。

```
lcm-agent 4096/tcp # LCM Agent
```

7. オプションで、LCM Agent の TCP/IP ポートを LCM Agent 専用予約する場合は、TCP/IP 構成プロファイルに PORT 文を入力します。
- ポートの競合を回避するため、専用ポートの予約をお勧めします。次の例の 1 列目は PORT 番号です。

PORT	
7 UDP MISCSERV	; Miscellaneous Server
.	
3002 TCP LCMAGENT	; LCM Agent ***** ADD THIS LINE **

注 – 実行中の TCP/IP アドレス空間で追加したポート番号を強制的に予約するには、TCP/IP アドレス空間を再起動するか、OBEYFILE コマンドまたは MVS VARY TCPIP コマンドを使用する必要があります。

8. または、LCM Agent を監視できるよう TCP/IP アドレス空間を設定します。

この構成の場合、TCP/IP アドレス空間の起動/停止に合わせて LCM Agent スタートタスクが自動的に起動/停止するため、LCM Agent を監視できるよう TCP/IP アドレス空間を設定することをお勧めします。さらに TCP/IP アドレス空間は定期的に LCM Agent の状態を照会し、アクティブになっていない場合は再起動します。この構成は、TCP/IP 構成プロファイルの AUTOLOG 文で設定できます。

次に例を示します。

```
AUTOLOG

                                FTPSERVE ; FTP Server
                                LPSERVE  ; LPD Server
                                NAMESRV  ; Domain Name Server
                                NCPROUT  ; NCPROUTE Server
                                PORTMAP  ; Portmap Server
                                ROUTED   ; Routed Server
                                RXSERVE  ; Remote Execution Server
                                SMTP     ; SMTP Server
                                SNMPD    ; SNMP Agent Server
                                SNMPQOE  ; SNMP Client
                                MISCSESV ; Miscellaneous Server
                                LCMAGENT ; LCM Agent *****ADD THIS

LINE *****
ENDAUTOLOG
```

LCM Agent スタートタスクのパラメータ

次の表は、LCM Agent スタートタスク JCL に指定できる実行パラメーターです。パラメータは EXEC 文の PARM= で指定します。

PORT

クライアント接続のポート番号を指定します。デフォルト値は 3002 です。

UPPERCASE

大文字でメッセージを入力することを指定します。

MODLEVEL

LCM Agent のサービスレベルを表示します。

MAXCONN

同時に確立できるクライアント接続の最大数を指定します。デフォルトは 50 です。

LOG(SYSTEM|DD)

メッセージのルーティングを指定します。

SYSTEM

メッセージをシステムコンソールにルーティングします。

DD

メッセージを **ddname** LWSLOG (デフォルト) にルーティングします。

SWAPpable

アイドル状態のとき、LCM Agent をスワップできることを指定します。デフォルトはスワップ不能です。

OPTFILE('filename') または OPTFILE(DD:ddname)

LCM Agent の実行パラメータを含む、完全修飾名が指定された MVS データセットまたは MVS ddname を指定します。多数の実行パラメータをコーディングする場合には、この文を指定すると、JCL パラメータ長の制限を無視できます。データセット名ではなく ddname をコーディングする場合は、先頭に「DD:」を付ける必要があります。たとえば、OPTFILE(DD:LCMOPTS) と指定します。

LCM Explorer のインストール (省略可能)

LCM Explorer は LCMGUI データセットのメンバー LCMXPLR 内に提供されます。LCM Explorer のアップデートは、このメンバーに置き換わる PTF として配布されます。ワークステーションにインストールされている LCM Explorer のビルトレベルは、Help メニューの「About LCM Explorer」で確認できます。

ワークステーションの LCM Explorer を更新するには、次の手順を実行します。

1. Explorer のアップデートが含まれている LCM PTF を、LCM を実行している MVS ホストにインストールします。
2. Explorer を実行している各 PC に LCMGUI データセットの LCMXPLR メンバーのコピーを FTP で転送し、メンバー名を LCMINST.EXE に変更します。次のように指定してください。

```
ftp <host name>
User: <userid>
Password: <password>
ftp> binary
ftp> get 'LCM.LCMGUI(LCMXPLR)' LCMINST.EXE
ftp> quit
```
3. 各ワークステーションで、LCMINST.EXE を実行し、セットアップウィザードの手順に従います。

Explorer 構成ファイルライブラリの割り振り

LCM Explorer によって構成ファイルが生成されます。この構成ファイルは、LCM の実行に使用する MVS ホスト上に常駐させる必要があります。構成ファイルを保存するライブラリは PDS でなければなりません。割り振り情報は SAMPLIB メンバー LCMINSTH で確認できます。

Explorer によって送信されたジョブの JCL 手順のインストール

LCM Explorer 7.1 は LCM バッチジョブを送信できます。この機能を使用するには、LCM を呼び出すカタログ式手順を SYS1.PROCLIB またはプライベートな JCLLIB などの適切な場所に保存する必要があります。サンプル JCL 手順は SAMPLIB メンバー LCMEXEC で確認できます。

注 – SYS1.PROCLIB (LCMEXEC) 内のカタログ式手順に含まれている JCL には、バッチ LCM アプリケーションの実行に必要な DD 文と同じ文が含まれていなければなりません。これには、LCMTMSDB (テープ管理システムカタログ)、LCMSECUR (LCM Agent アクセスコードファイル) などの DD 文のほか、SMC 7.1 UII を使用している場合は SMCLINK DD カード (SMC 7.1 ライブラリを指す) などの DD 文があります。

MVS/CSC インストール後の作業

ここでは、必要な MVS/CSC インストール後の作業について説明します。次のトピックがあります。

- MVS/CSC のMVS サブシステムとしての定義
- 同じ MVS ホストシステムで実行する複数の MVS/CSC サブシステムの定義
- MVS/CSC ロードライブラリの許可
- MVS/CSC ユーザー出力ライブラリの許可
- MVS LINKLIST ライブラリへの SCSBPRESI モジュールのコピーまたは移動
- MVS プログラム属性テーブルへの MVS/CSC の追加
- MVS/CSC のイベントログおよびトレースのデータセットの割り振り

MVS/CSC のMVS サブシステムとしての定義

MVS/CSC は、プライマリジョブ入力サブシステムのもとでセカンダリサブシステムとして実行されます。

SMC を MVS サブシステムとして実行する場合は、サブシステム名テーブル (SYS1.PARMLIBのIEFSSNzzメンバー) に 1 行追加して、以下を識別する必要があります。

- MVS/CSC スタートアップ手順の手順名に対応する MVS/CSC サブシステム名 (1-4文字) です。
- MVS/CSCサブシステム初期設定ルーチン名。これはSCSBPREIでなければなりません。

MVS/CSC サブシステム名を CSC0 とすると、MVS/CSC をサブシステム名テーブルに正しく追加するには、以下に示す行を追加します。このサンプルエントリは、ELS インストールテープに収められている MVS/CSC サンプルライブラリの IEFSSNYY メンバーにあります。

```
SUBSYS SUBNAME(CSC0) INITRTN(SCSBPREI) /* keyword
```

MVS SETSSI コマンドを使用して MVS/CSC サブシステム名を動的に定義することも可能です。次に例を示します。

```
SETSSI ADD,SUB=CSC0,INITRTN=SCSBPREI
```

ここでは、CSC0 は MVS/CSC サブシステム名、SCSBPREI は MVS/CSC サブシステム初期設定ルーチンです。

注 –

- MVS/CSC サブシステム名を動的に定義していない場合、MVS/CSC サブシステム名のエントリを有効にするには、MVS ホストシステムの IPL を実行する必要があります。
 - MVS メッセージ処理の実行中は、MVS/CSC にはテープ管理システムとの相互作用はありません。このため、HSC サブシステムおよびテープ管理サブシステムの定義の順番は意味がありません。ただし指定された場合は、SMCサブシステムの定義はテープ管理システムのエントリーの後でなくてはなりません。
 - サブシステム名の定義についての詳細は、IBM z/OS の資料を参照してください。
-

同じMVS ホストシステムで実行する複数の MVS/CSC サブシステムの定義

1つの MVS ホストシステムで、複数の MVS/CSC サブシステムを実行することができます。各MVS/CSCは、別々のMVSサブシステムとして定義されなければなりません。複数の MVS/CSC サブシステムの実行には、複数の JCL 起動手順、追加される起動パラメータファイル、およびオプションのイベントログ、トレース、および TAPEREQ 定義データセットのためのディスクスペースが追加で必要になるだけです。

複数のMVS/CSCをそれぞれ別々のサーバーに接続して実行しようとする場合、次のオペレーティング要件および制限を考慮する必要があります。

- すべての MVS/CSC サブシステムは、実行可能モジュールの単一コピーから実行することもできます。
- 各MVS/CSC サブシステムには、それぞれ固有の MVS サブシステム定義、カタログ式手順、起動パラメータ、仮想ストレージ、オプションのイベントログ、トレース、および TAPEREQ 定義データセットが必要です。
- MVS/CSC ユーザー出口は、各 MVS/CSC サブシステムについて同じバージョンを使用しなくてはなりません。
- オペレータコマンドの接頭文字は、ローカルなオペレーティング設定に応じて、同じでも異なってもかまいません。

注 – SMCは、ボリュームおよびポリシー情報を使用して MVS/CSC サブシステムに問い合わせ、どのサブシステムが割り振り要求を所有するかを判別します。確認の順序は、SMC LIBRARY コマンドの順序によって決まります (指定した場合)。LIBRARYコマンドを指定しない場合は、SSCVTテーブルにあるMVS/CSCの順序が使用されます。

各サブシステムについて次の定義が必要です。

- サーバー接続
- 起動パラメータファイル
- 通信リンク
- MVS/CSC 起動手順

また、各サブシステムについて次のデータセットをオプションで定義できます。

起動パラメータに指定された **USERDATA** パラメータのテキストは、それらのユーザー出口に渡されます。このテキストおよびパラメータリスト (ジョブ名、データセット名、およびそのほかの情報を含みます) を使用して、そのアクティブなMVS/CSCサブシステムが割り振り要求の所有者と見なされる **SMC** を指定できます。

注 -

- MVS/CSC ユーザー出口の詳細については、『*ELS Legacy Interfaces Reference*』を参照してください。
 - MVS/CSC 構成に関する作業については、『*MVS/CSC Configuration Guide*』を参照してください。
 - MVS/CSCの操作手順に関する情報については、『*MVS/CSC オペレータズガイド*』を参照してください。
-

MVS/CSC ロードライブラリの許可

MVS/CSC は MVS で許可プログラムとして実行する必要があります。したがって、次の手順を実行して、MVS/CSC ロードライブラリを APF 許可する必要があります。

1. SYS1.PARMLIB の IEAAPFzz または PROGzz メンバーに MVS/CSC ロードライブラリを追加します。
2. [86 ページの「MVS/CSC ロードライブラリの許可」](#) に説明されているコマンドを発行してロードライブラリを許可します。

IEAAPFzz メンバーへの MVS/CSC ロードライブラリの追加

MVS/CSC ロードライブラリを許可するには、IEAAPFzz メンバーに次のエントリを追加します。

```
your.SCSLINK volser,  
your.SACLINK volser,  
your.CSLLINK volser,
```

このエントリを APF 許可プログラムリストに追加する前に、高位修飾子および volser を、使用するシステムに適した値に編集してください。

IEAAPFzz メンバーに複数のエントリがある場合は、各エントリ (最後のエントリを除く) の末尾にコンマを付けて続きがあることを示します。最後のエントリにはコンマは付けません。

注 –

- MVS/CSCロードライブラリがSMS管理対象ボリュームにある場合は、APF許可ライブラリエントリにボリュームを指定する必要はありません。この場合、ライブラリがSMS管理対象であることを示すために、ライブラリ名のあとには何も指定しないでください。間違ったボリュームを指定した場合、そのライブラリはAPF許可できません。
- CA Unicenter TCPPaccess 通信サーバーを使用している場合、TCPLINK ロードライブラリが必要です。

```
your.TCPLINK volser,
```

詳細については、CA の資料を参照してください。IBM TCP/IPを使用している場合はこのロードライブラリは必要ありません。

PROGzz メンバーへの MVS/CSC ロードライブラリの追加

MVS/CSC ロードライブラリを許可するには、PROGzz メンバーに次のエントリを追加します。

```
APF ADD
  DSNAME(your.SCSLINK)
  VOLUME(volser) | SMS
APF ADD
  DSNAME(your.SACLINK)
  VOLUME(volser) | SMS
APF ADD
  DSNAME(your.CSLINK)
  VOLUME(volser) | SMS
```

このエントリを APF 許可プログラムリストに追加する前に、高位修飾子および volser を、使用するシステムに適した値に編集してください。

注 –

- MVS/CSCロードライブラリがSMS管理対象ボリュームにある場合は、APF許可ライブラリエントリにボリュームを指定する必要はありません。この場合、ライブラリがSMS管理対象であることを示すために、当該ライブラリ名の後ろにリテラルで「SMS」を指定します。間違ったボリュームを指定した場合、そのライブラリはAPF許可できません。
- CA Unicenter TCPPaccess 通信サーバーを使用している場合、TCPLINK ロードライブラリが必要です。

```
APF ADD
  DSNAME(your.TCPLINK)
  VOLUME(volser) | SMS
```

詳細については、CA の資料を参照してください。IBM TCP/IPを使用している場合はこのロードライブラリは必要ありません。

MVS/CSC ロードライブラリの許可

IPL の実行時にライブラリが許可されるよう、IEAAPFzz または PROGzz メンバーにエントリを追加する必要があります。また、稼働中のシステム上にあるライブラリを動的に許可するには、次の MVS システムコマンドを発行します。

ライブラリが SMS 管理対象の場合

```
SETPROG APF,ADD,DSN=your.SCSLINK,SMS
SETPROG APF,ADD,DSN=your.SACLINK,SMS
SETPROG APF,ADD,DSN=your.CSLLINK,SMS
```

ライブラリが SMS 管理対象ではない場合

```
SETPROG APF,ADD,DSN=your.SCSLINK,volser
SETPROG APF,ADD,DSN=your.SACLINK,volser
SETPROG APF,ADD,DSN=your.CSLLINK,volser
```

MVS/CSC ユーザー出口ライブラリの許可

MVS/CSC ユーザー出口ライブラリは、MVS/CSC ロードライブラリと同じライブラリでも、異なるライブラリでも許可されます。MVS/CSC ユーザー出口ライブラリが MVS/CSC ロードライブラリとは別のライブラリの場合は、次の手順を実行して、MVS/CSC ユーザー出口ロードライブラリを APF 許可する必要があります。

1. SYS1.PARMLIB の IEAAPFzz または PROGzz メンバーに MVS/CSC ユーザー出口ロードライブラリを追加します。
2. [87 ページの「MVS/CSC ユーザー出口ロードライブラリの許可」](#) に説明されているコマンドを発行してロードライブラリを許可します。

IEAAPFzz メンバーへの MVS/CSC ユーザー出口ライブラリの追加

MVS/CSC ユーザー出口ロードライブラリを許可するには、IEAAPFzz メンバーに次のエントリを追加します。

```
your.SCSLINK      volser,
your.CSC_USEREXIT.LOAD    volser,
```

このエントリを APF 許可プログラムリストに追加する前に、高位修飾子および *volser* を、使用するシステムに適した値に編集してください。

IEAAPFzz メンバーに複数のエントリがある場合は、各エントリ (最後のエントリを除く) の末尾にコンマを付けて続きがあることを示します。最後のエントリにはコンマは付けません。

注 – MVS/CSC ユーザー出口ロードライブラリが SMS 管理対象ボリュームにある場合は、APF 許可されたライブラリエントリにボリュームを指定する必要はありません。この場合、ライブラリが SMS 管理対象であることを示すために、ライブラリ名のあとには何も指定しないでください。間違ったボリュームを指定した場合、そのライブラリは APF 許可できません。

PROGzz メンバーへの MVS/CSC ユーザー出口ライブラリの追加

MVS/CSC ユーザー出口ロードライブラリを許可するには、PROGzz メンバーに次のエントリーを追加します。

```
APF ADD
  DSNAME(your.SCSLINK)
  VOLUME(volser) | SMS
APF ADD
  DSNAME(your.CSC_USEREXIT.LOAD)
  VOLUME(volser) | SMS
```

このエントリを APF 許可プログラムリストに追加する前に、高位修飾子および volser を、使用するシステムに適した値に編集してください。

注 – MVS/CSC ユーザー出口ロードライブラリが SMS 管理対象ボリュームにある場合は、APF 許可されたライブラリエントリにボリュームを指定する必要はありません。この場合、ライブラリが SMS 管理対象であることを示すために、当該ライブラリ名の後ろにリテラルで「SMS」を指定します。間違ったボリュームを指定した場合、そのライブラリは APF 許可できません。

MVS/CSC ユーザー出口ロードライブラリの許可

IPL の実行時にライブラリが許可されるよう、IEAAPFzz または PROGzz メンバーにエントリを追加する必要があります。また、稼働中のシステム上にあるライブラリを動的に許可するには、次の MVS システムコマンドを発行します。

ライブラリが SMS 管理対象の場合

```
SETPROG APF,ADD,DSN=your.CSC_USEREXIT.LOAD,SMS
```

ライブラリが SMS 管理対象ではない場合

```
SETPROG APF,ADD,DSN=your.CSC_USEREXIT.LOAD,volser
```

MVS LINKLIST ライブラリへの SCSBPRI モジュールのコピーまたは移動

SCSLINKライブラリにあるMVS/CSCサブシステム再初期設定ルーチンモジュール (SCSBPREI)は、MVS LINKLISTライブラリにも存在する必要があります。SCSBPREI モジュールは、SCSLINK ライブラリから LINKLIST ライブラリにコピーすることができます。

SCSBPREI 事前初期設定ルーチンモジュールは、MVS/CSC の各リリース間で、機能の互換性があります。ただし、それ以上の互換性については、SCSBPREI 事前初期設定モジュールの最新のリリースを使用してください。

MVS プログラム属性テーブルへの MVS/CSC の追加

MVSプログラム属性テーブル(PPT)を修正して、MVS/CSCサブシステムに関するエントリを追加する必要があります。

注 – MVS/CSCの実行には、(1-7の)ローキーを使用します。この節の例では、キー 3 を使用します。キー 8 - 15 を使用すると、予期しない結果が発生します。

SYS1.PARMLIB のメンバー SCHEDzz に次のエントリを追加します。

```
PPT PGMNAME(SCSBINIT),PRIV,SYST,KEY(3)
```

MVS/CSC のイベントログおよびトレースのデータセットの割り振り

イベントログデータセットは、MVS/CSCのイベントログ機能によってログ出力されたイベントを記録するために使用します。トレースデータセットは、MVS/CSCのトレース機能によって出力されたトレースを記録するために使用します。MVS/CSCのイベントログ機能およびトレース機能を使用する場合は、これらの機能を使用して生成された出力を記録するように、イベントログおよびトレースデータセットを割り振る必要があります。次の表に、望ましいサイズの定義を示します。ブロックとして記載された数値は、データセットに必要とされる最小値です。

MVS/CSCのイベントログおよびトレース機能についての詳細は、『MVS/CSC 構成ガイド』および『MVS/CSC システムプログラマズガイド』を参照してください。

表 5-2 トレースおよびイベントログのデータセット

データセット	DSORG	RECFM	LRECL	BLKSIZE	トラック	ディレクトリブロック
TRACE	PS	VB	3076	10000	2000	-
EVENT LOG	PS	VB	3076	10000	2000	-

LibraryStation インストール後の作業

概要

この章では、LibraryStation インストール後の必要な作業について説明します。次のトピックがあります。

- LibraryStation ロードライブラリの許可
- 永続データファイル (PDF) の定義 (省略可能)

LibraryStation ロードライブラリの許可

LibraryStation は MVS で許可プログラムとして実行する必要があります。したがって、次の手順を実行して、LibraryStation ロードライブラリを APF 許可する必要があります。

1. SYS1.PARMLIB の IEAAPFzz または PROGzz メンバーに LibraryStation ロードライブラリを追加します。
2. 91 ページの「LibraryStation ロードライブラリの APF 許可」に説明されているコマンドを発行してロードライブラリを許可します。

IEAAPFzz メンバーへの LibraryStation ロードライブラリの追加

LibraryStation ロードライブラリを許可するには、IEAAPFzz メンバーに次のエントリを追加します。

```
your.SLCLINK volser,  
your.SACLINK volser,  
your.CSLLINK volser,
```

このエントリを APF 許可プログラムリストに追加する前に、高位修飾子および volser を、使用するシステムに適した値に編集してください。

IEAAPFzz メンバーに複数のエントリがある場合は、各エントリ (最後のエントリを除く) の末尾にコンマを付けて続きがあることを示します。最後のエントリにはコンマは付けません。

注 -

- LibraryStationロード・ライブラリがSMS管理対象ボリュームにある場合は、APF許可されたライブラリエントリにボリュームを指定する必要はありません。この場合、ライブラリが SMS 管理対象であることを示すために、ライブラリ名のあとには何も指定しないでください。間違ったボリュームを指定した場合、そのライブラリは APF 許可できません。
- TCP/IP 通信に CA Unicenter TCPaccess 通信サーバーを使用している場合、TCPLINK ロードライブラリが必要です。

```
your.TCPLINK volser,
```

詳細については、CA の資料を参照してください。IBM TCP/IPを使用している場合はこのロードライブラリは必要ありません。

PROGzz メンバーへの LibraryStation ロードライブラリの追加

LibraryStation ロードライブラリを許可するには、PROGzz メンバーに次のエントリーを追加します。

```
APF ADD
  DSNAME(your.SLCLINK)
  VOLUME(volser) | SMS
APF ADD
  DSNAME(your.SACLINK)
  VOLUME(volser) | SMS
APF ADD
  DSNAME(your.CSLLINK)
  VOLUME(volser) | SMS
```

このエントリーを APF 許可プログラムリストに追加する前に、高位修飾子および volser を、使用するシステムに適した値に編集してください。

注 -

- LibraryStationロード・ライブラリがSMS管理対象ボリュームにある場合は、APF許可されたライブラリエントリにボリュームを指定する必要はありません。この場合、ライブラリが SMS 管理対象であることを示すために、当該ライブラリ名の後ろにリテラルで「SMS」を指定します。間違ったボリュームを指定した場合、そのライブラリは APF 許可できません。
- CA Unicenter TCPaccess 通信サーバーを使用している場合、TCPLINK ロードライブラリが必要です。

```
APF ADD
  DSNAME(your.TCPLINK)
  VOLUME(volser) | SMS
```

詳細については、CA の資料を参照してください。IBM TCP/IPを使用している場合はこのロードライブラリは必要ありません。

LibraryStation ロードライブラリの APF 許可

IPL の実行時にライブラリが許可されるよう、IEAAPFzz または PROGzz メンバーにエントリを追加する必要があります。また、稼働中のシステム上にあるライブラリを動的に許可するには、次の MVS システムコマンドを発行します。

ライブラリが SMS 管理対象の場合

```
SETPROG APF,ADD,DSN=your.SLCLINK,SMS
SETPROG APF,ADD,DSN=your.SACLINK,SMS
SETPROG APF,ADD,DSN=your.CSLLINK,SMS
```

ライブラリが SMS 管理対象ではない場合

```
SETPROG APF,ADD,DSN=your.SLCLINK,volser
SETPROG APF,ADD,DSN=your.SACLINK,volser
SETPROG APF,ADD,DSN=your.CSLLINK,volser
```

永続データファイル (PDF) の定義 (省略可能)

LibraryStation のソフトウェアには、LibraryStation の初期設定の間に初期設定されるデータベースマネージャー (DBM) も含まれます。DBMは、リソースロックやデバイスステータスなど、HSCによって保守されないいくつかの永久データオブジェクトを管理します。

DBM 管理対象のデータオブジェクトは、1 つまたは複数の VSAM ファイルに格納されます。これらのファイルを総称して永続データファイル (PDF) と呼びます。PDF には、ボリュームレコード、ドライブレコードおよび lockid レコードが入っています。

注 -

- LibraryStationの以前のリリースからマイグレーションする場合は、既存のPDFを削除し、新規のリリースのために新たにPDFを定義する必要があります。
- LibraryStation が異種のクライアント (すなわち、MVS 以外のクライアント) にサービスを提供している場合、PDF の定義が必要です。LibraryStationがSysplex環境でMVSクライアントにサービスを提供している場合は、PDFの定義を行わないでください。PDFは、Sysplex環境ではサポートされません。PDF については、『LibraryStation Configuration and Administration Guide』を参照してください。
- 複数の LibraryStation を実行している場合、PDF に関する注意については、『LibraryStation Configuration and Administration Guide』を参照してください。

LibraryStationが異種のクライアントにサービスを提供する場合、PDFの定義が必要です。PDF のデータセットの定義は、IDCAMS を使用します。次の図は、PDF の定義に使用される IDCAMS 文を示しています。PDF にデータセットを定義する JCL は、LibraryStation サンプルライブラリの SLGDBCR メンバーに含まれます。

PDF のデータセットを定義する JCL については、[92 ページの図 5-1](#)を参照してください。この JCL は LibraryStation サンプルライブラリの SLGDBCR メンバーにあります。

図 5-1 LibraryStation PDF データセットを定義する JCL

```

//SLGDBCR JOB job card info,REGION=1M
//*
/* NOTE: A minimum of 1 Meg of virtual storage is needed
/*      for this job (i.e., use REGION=1M on the job card)
/*
//CREATEDB EXEC PGM=IDCAMS
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//INPUT DD *
000000000000 DB INITIALIZATION RECORD
//SYSIN DD *
  DELETE (cluster_name) CLUSTER
  DEFINE CLUSTER (
    NAME(cluster_name)
    VOLUMES(volser)
    RECORDS(nr,2*nr)
    RECORDSIZE(30 100)
    KEYS(12 0)
    UNIQUE )
  REPRO INFILE(INPUT)
    OUTDATASET(cluster_name)
  DEFINE ALTERNATEINDEX (
    NAME(alternate_index_name)
    RELATE(cluster_name)
    KEYS(10 2)
    RECORDS(nr,2*nr)
    RECORDSIZE(27 27)
    VOLUMES(volser)
    UNIQUEKEY
    UNIQUE
    UPGRADE )
  DEFINE PATH (
    NAME(path_name)
    PATHENTRY(alternate_index_name))
  BLDINDEX
    INDATASET (cluster_name)
    OUTDATASET (alternate_index_name)
  LISTCAT ENTRIES (
    cluster_name
    alternate_index_name
    path_name) ALL
/*

```

次の情報については、提供または修正が必要です。

- ジョブカード情報
- PDF のデータセット名
- PDF のボリュームロケーション
- レコードキーワードの値

PDF のデータセット名

入力するデータセット名は、次の表に示したリストに従う必要があります。

表 5-3 PDF のデータセット名

NAME キーワード	説明
CLUSTER	SLSPDF ベースクラスターの名前(<i>cluster_name</i>)。例えば、LSTAT.PDF
ALTERNATEINDEX	SLSPDFX 代替インデックスの名前(<i>alternate_index_name</i>)。例えば、LSTAT.PDFAIX
PATH	SLSPDFX のパスの名前(<i>path_name</i>)。例えば、LSTAT.PDFPATH

注 データセットの名前に関しては、命名規則は事前定義されていません。これら 3 つのデータセットに同じ接頭文字を使用でき、それぞれの名前には固有のファイルタイプを割り当てることができます。

ボリュームのロケーション

LibraryStationには1つのPDFが定義されます。LibraryStationの初期設定済みのホストシステムでは、PDFがあるDASDボリュームへのアクセスができなければなりません。このため、複数のホストが存在し、2台以上のホストがLibraryStationの初期設定ができる環境では、初期設定を行う各ホストにアクセスできる共有DASDにPDFがなければいけません。

利用可能な DASD であれば、どの DASD にも PDF を割り振ることができます。DASD はその *volser* によって特定されます。

レコードキーワードの値

PDF のレコードスペースの計算(*nr*)(以下を参照)は、クライアントシステムが 1 度にロックしたボリュームの最大数(*nv*)、およびネットワーククライアントにより使用されるテープカートリッジドライブの総数(*nd*)に基づきます。

$$\text{number of records (nr)} = (nv + nd) * 1.1$$

セカンダリ PDF のスペースの割り振りは、レコード数の 2 倍 ($2*nr$) と計算されます。

LibraryStation インストールのほとんどの場合、適切な設定レコード数は、プライマリレコードは 2000、セカンダリレコードは 4000です。しかし、特定のインストールに関するレコードを検証したい場合は、サイトのボリューム数とネットワーククライアントデータで割り振り方法を使います。

付録 A

ELS サンプル、モジュールおよびマクロ

概要

この付録では、ELS パッケージに含まれているサンプル、ソースコード モジュール、ロードモジュール、およびマクロのリストを示します。

注 – ELS インストールに使用する JCL サンプルについては、[19 ページの表 1-1](#)および [20 ページの表 1-2](#)を参照してください。

ELS のサンプル、ソースコードモジュール、およびマクロ

次の表は、ELS インストールテープ/CD-ROM に収められている ELS のサンプル、ソースコードモジュール、およびマクロのリストです。

表 A-1 ELS のサンプル

メンバー名	説明
GTFEXTR	単一ジョブの SMC トレースの抽出のサンプル
GTFLMU	LMU 要求をトレースする MVS 2.X PARMLIB メンバーのサンプル
GTFPARMS	SMC トレースの GTF パラメータのサンプル
GTFPROC	GTF 起動 JCL のサンプル
IEAAPFZZ	SMC APF リストエントリのサンプル
IEFSSNZZ	SMC サブシステム名テーブルエントリのサンプル
INSTUXIT	SMP/E 管理対象ユーザー出口をインストールする SMP/E のサンプル
LIBGNJCL	LIBGEN ソースファイルのアセンブルおよびリンクを行う JCL のサンプル
MSGMPFUX	MPF ユーザー出口のサンプル
POLCVT01	POLCVT メンバーのサンプル
POLCVT02	POLCVT REXX データセットプログラムのサンプル
PROGZZ	ELS APF リストエントリのサンプル
SCHEDZZ	ELS のMVS プログラム属性テーブル (PPT) エントリのサンプル
SENDEL	SEN マクロインタフェースプログラムのサンプル
SENDISA	SEN マクロインタフェースプログラムのサンプル
SENENA	SEN マクロインタフェースプログラムのサンプル
SENEXIT	SEN ユーザー出口のサンプル
SENQRST	SEN マクロインタフェースプログラムのサンプル
SLSSYS00	HSC 起動パラメータファイルのサンプル
SLSUX03	スクラッチサブプールのユーザー出口のデフォルト
SLSUX05	プログラマチックインタフェース (PGMI) ユーザー出口のデフォルト
SLSUX06	データベース挿入/削除ユーザー出口のデフォルト
SLSUX14	ボリュームアクセスユーザー出口のデフォルト
SLSUX15	コマンド許可ユーザー出口のデフォルト
SLUCONDB	スクラッチ変換ユーティリティーのソースコード
SMC3UX09	SMC JES3 IATUX09 ユーザー出口のソースのサンプル
SMC3UX71	SMC JES3 IATUX71 ユーザー出口のソースのサンプル
SMCCMDS	SMCCMDS DD 文のコマンドファイルのサンプル
SMCJRSLA	SMCERSLV のアセンブルおよびリンクを行う JCL のサンプル (JES3のみ)
SMCJRSLV	SMCERSLV のための UCLIN を実行する JCL のサンプル (JES3のみ)

表 A-1 ELS のサンプル (続き)

メンバー名	説明
SMCJTYP1	SMC Type 1 の修正をインストールする SMP/E の JCL のサンプル (JES3のみ)
SMCJUX09	SMC IATUX09 ユーザーの修正をインストールする SMP/E の JCL のサンプル (JES3のみ)
SMCJUX71	SMC IATUX71 ユーザーの修正をインストールする SMP/E の JCL のサンプル (JES3のみ)
SMCPARMS	SMCPARMS DD文のパラメータファイルのサンプル
SMCPROC	起動 JCL のサンプル
SMCUIICM	IATIICM Type 1の修正のサンプル (JES3のみ)
SMCUIIP1	IATIIP1 Type 1 の修正のサンプル (JES3のみ)
SMCUMDAL	IATMDAL Type 1 の修正のサンプル (JES3のみ)
SMCUMDFE	IATMDFE Type 1 の修正のサンプル (JES3のみ)
SMCUUX09	SMC JES3 IATUX09ユーザー修正のサンプル (JES3のみ)
SMCUUX71	SMC JES3 IATUX71 ユーザー修正のサンプル (JES3のみ)
SMFPRMXX	HSC SMF レコードサブタイプの PARMLIB 定義のサンプル
UX06SAM1	テープ管理システムとのインタフェースを行う HSC ユーザー出口 06 のサンプル

表 A-2 ELS のソースコードモジュール

メンバー名	説明
SMCERSLV	JES3 マクロフィールド解決ルーチンのソースコード
SLSUX03	スクラッチサブプールユーザー出口のソースコード
SLSUX05	PGMI 許可ユーザー出口のソースコード
SLSUX06	挿入/削除ユーザー出口のソースコード
SLSUX14	ボリュームアクセスユーザー出口のソースコード
SLSUX15	コマンド許可ユーザー出口のソースコード
SLUCONDB	SLUCONDB のソースコード
SLUDRCA1	スクラッチ変換ユーティリティ CA-1 (TMS) データベース READ ルーチンのソースコード
SLUDRRMM	スクラッチ変換ユーティリティ DFSMSrmm データベース READ ルーチンのソースコード
SLUDRSMC	TMS データベース抽出 READ ルーチンのソースコード
SLUDRTLMS	スクラッチ変換ユーティリティ CA-TLMS (TLMS)データベース READ ルーチンのソースコード
SLUDRZAR	Zara データベース抽出 READ ルーチンのソースコード

表 A-3 ELS のマクロ

メンバー名	説明
ACSRQ	ACS 要求のためのパラメータリストのフォーマット
NCSCOMM	NCSCOMM パラメータリスト
NCSUUI	NCS UUI 呼び出しサービス
NUUIIA	NCS UUI インタフェース域
SLSUX01P	HSC 形式ユーザー出口01 のパラメータリスト
SLSUX02P	HSC 形式ユーザー出口02 のパラメータリスト
SLSUX04P	HSC 形式ユーザー出口04 のパラメータリスト (JES3のみ)
SLSUX08P	HSC 形式ユーザー出口08 のパラメータリスト
SLSUX09P	HSC 形式ユーザー出口09 のパラメータリスト
SLSUX10P	HSC 形式ユーザー出口10 のパラメータリスト
SLSUX11P	HSC 形式ユーザー出口11 のパラメータリスト (JES3のみ)
SLSUX12P	HSC 形式ユーザー出口12 のパラメータリスト (JES3のみ)
SLSUX13P	HSC 形式ユーザー出口13 のパラメータリスト (JES3のみ)
SCSUX01P	MVS/CSC 形式ユーザー出口01 のパラメータリスト
SCSUX02P	MVS/CSC 形式ユーザー出口02 のパラメータリスト
SCSUX04P	MVS/CSC 形式ユーザー出口04 のパラメータリスト (JES3のみ)
SCSUX08P	MVS/CSC 形式ユーザー出口08 のパラメータリスト
SCSUX09P	MVS/CSC 形式ユーザー出口09 のパラメータリスト
SCSUX10P	MVS/CSC 形式ユーザー出口10 のパラメータリスト
SCSUX11P	MVS/CSC 形式ユーザー出口11 のパラメータリスト (JES3のみ)
SCSUX12P	MVS/CSC 形式ユーザー出口12 のパラメータリスト (JES3のみ)
SCSUX13P	MVS/CSC 形式ユーザー出口13 のパラメータリスト (JES3のみ)
SLIACS	LIBGEN SLIACS マクロ
SLIALIST	LIBGEN SLIALIST マクロ
SLICOV	定数と変数の大域構成
SLIDLIST	LIBGEN SLIDLIST マクロ
SLIDRIVS	LIBGEN SLIDRIVS マクロ
SLIENDGN	LIBGEN SLIENDGN マクロ
SLIERMSG	LIBGEN エラーメッセージマクロ
SLILBACS	LIBGEN ACS 領域
SLILBALS	LIBGEN ACLIST 領域
SLILBDLS	LIBGEN DRIVELST 領域
SLILBDRV	LIBGEN DRIVES 領域
SLILBEND	LIBGEN ENDGEN 領域
SLILBLIB	LIBGEN LIBRARY 領域
SLILBLSM	LIBGEN LSM 領域

表 A-3 ELS のマクロ (続き)

メンバー名	説明
SLILBREC	LIBGEN RECOVERY 領域
SLILBSTA	LIBGEN STATION 領域
SLILCV	インストールLCT 定数 / 変数
SLILIBRY	LIBGEN LIBRARY マクロ
SLILSM	LIBGEN LSM マクロ
SLIPTPCK	LIBGEN SLIPTPCK マクロ
SLIRCVRY	LIBGEN RECOVERY マクロ
SLISTATN	LIBGEN STATION マクロ
SLSDILLT	LIBGEN LOCATION タイプ
SLSDVAR	配布ボリューム属性レコード長
SMCEHOOK	SMC Type 1修正マクロ (JES3のみ)
SMCEMFLD	JES3 マクロフィールド解決ブロック (SMCERSLV で使用) (JES3 のみ)
SLSSBLOG	INIT/TERM LOGREC レコード
SLSSBLOS	LSM 動作統計データ域
SLSSCAPJ	CAP SMF EJECT レコード
SLSSCAPN	CAP SMF ENTER レコード
SLSSDJLR	LOGREC マップのジャーナルを作成するデータベース
SLSSFHDR	SMF レコードヘッダー
SLSSHLG1	ホスト通信 LOGREC フォーマット1
SLSSLHDR	LOGREC レコードヘッダーマップ
SLSSLLG1	LMU ドライバ LOGREC フォーマット1
SLSSLLG2	LMU ドライバ LOGREC フォーマット2
SLSSLLG3	LMU ドライバ LOGREC フォーマット3
SLSSLLG4	LMU ドライバLOGREC フォーマット4
SLSSLLG5	LMU ドライバ LOGREC フォーマット5
SLSSLLG6	LMU ドライバ LOGREC フォーマット6
SLSSLSB	LMU ATHS 統計バッファ
SLSSMF07	HSC フォーマット7 SMF レコード
SLSSMF08	HSC フォーマット8 SMF レコード
SLSSMF09	HSC フォーマット9 SMF レコード
SLSSMF10	HSC フォーマット10 SMF レコード
SLSSMF11	HSC フォーマット11 SMF レコード
SLSSMF12	HSC フォーマット12 SMF レコード
SLSSMF13	HSC フォーマット13 SMF レコード
SLSSMF14	HSC フォーマット14 SMF レコード
SLSSMF15	HSC フォーマット15 SMF レコード
SLSSMF16	HSC フォーマット16 SMF レコード

表 A-3 ELS のマクロ (続き)

メンバー名	説明
SLSSMF17	HSC フォーマット17 SMF レコード
SLSSMF18	HSC フォーマット18 SMF レコード
SLSSMF19	HSC フォーマット19 SMF レコード
SLSSMF20	HSC フォーマット20 SMF レコード
SLSSMF21	HSC フォーマット21 SMF レコード
SLSSMF22	HSC フォーマット22 SMF レコード
SLSSMF23	HSC フォーマット23 SMF レコード
SLSSMF24	HSC フォーマット24 SMF レコード
SLSSMF25	HSC フォーマット25 SMF レコード
SLSSMF26	HSC フォーマット26 SMF レコード
SLSSMF27	HSC フォーマット27 SMF レコード
SLSSMF28	HSC フォーマット28 SMF レコード
SLSSMF29	HSC フォーマット29 SMF レコード
SLSSMF30	HSCフォーマット30 SMFレコード
SLSSMLSM	LSM SMF レコードサブタイプマップの修正
SLSSPSWI	プライマリ/シャドウスイッチ LOGREC レコード
SLSSRL00	回復 ERDS レコード0
SLSSRL01	回復 ERDS レコード1
SLSSVLG1	VOL/CELL 強制選択解除レコード
SLSSVSTA	VARY ステーション SMF レコードサブタイプマップ
SLSUREQ	バッチ API 要求プロセッサ
SLSSUREQM	バッチ API インタフェースマッピングマクロ
SLSUX03P	HSC ユーザー出口03 パラメータリスト
SLSUX05P	HSC ユーザー出口05 パラメータリスト
SLSUX06P	HSC ユーザー出口06 パラメータリスト
SLSUX14P	HSC ユーザー出口14 パラメータリスト
SLSUX15P	HSC ユーザー出口15 パラメータリスト
SLSXB2X	8 ビット形式から 16 ビット形式への変換
SLSSWMSG	HSC によって発行された WTO タイプのメッセージに書き込まれた logrec レコードのマップ
SLSXREQ	ACS 要求の発行
SLSXREQM	ACS ユーザーインタフェースマッピングマクロ
SLSXSEN	HSC 重要イベント通知 (SEN) 要求
SLSXSENM	重要イベント通知 (SEN) 要求 PARM リストマップ
SLUDRINF	TMS DB Read パラメータリスト
SLUVADAT	フラットファイル ACS/LSM 情報 DSECT
SLUVCDAT	フラットファイル静的構成データ DSECT
SLUVDDAT	QCDS ドライブ情報 DSECT

表 A-3 ELS のマクロ (続き)

メンバー名	説明
SLUVHDAT	フラットファイルホスト情報 DSECT
SLUVIDAT	フラットファイル CDS 情報 DSECT
SLUVM DAT	フラットファイル MVC データ DSECT
SLUVPDAT	QCDS CAP 情報 DSECT
SLUVSDAT	フラットファイル ACS ステーションアドレス DSECT
SLUVTDAT	フラットファイル VTV データ DSECT
SLUVVDAT	フラットファイルボリュームデータ DSECT
SLX	HSC 外部インタフェース応答
SWSPGMIA	VTCS PGMI インタフェース域 (VTCS のみ)

LCM のサンプル

次の表は、ELS インストールテープ/CD-ROM に収められている LCM のサンプルおよびマクロのリストです。

表 A-4 LCM のサンプル

メンバー名	説明
LCMAGENT	サンプル LCM Agent スターテッドタスク手順
LCMAPFXX	サンプル LCM 許可ライブラリリストエントリ
LCMCGI	TMS OPEN ホストのサンプル CGI スクリプト
LCMCHGS	PTF として、リリースの累積的な文書の変更を適用
LCMCODES	サンプル LCM Agent アクセスコードファイル
LCMEXEC	LCM Explorer によって送信されたジョブ、およびインストール時に送信された LCM ジョブに使用するサンプル JCL 手順。LCMEXEC がインストール時にすべての LCM の実行に共通の項目を事前に決定。 たとえば、リンクリストまたは LPA リストに含まれていないライブラリに LCM をインストールする場合は、実稼働 LCM ロードライブラリを指す STEPLIB が LCMEXEC に含まれていないなければならない。 大部分の LCM ジョブによって動的に割り振りされる DD 文、または LCM ジョブが次のジョブと異なる DD 文が LCMEXEC に含まれていてはならない。
LCMINDEX	LCM サンプルライブラリの索引
LCMKST	各拡張フィールドの主要値を記録。LCMKST には、すべての拡張フィールドの等価値のリストが含まれる。すべての拡張フィールドには 0 より大きい関連キーを入力。
LCMMTHF	メソッドファイルレコードのレイアウトを定義するマクロ。詳細については、『 <i>LCM User's Guide</i> 』の「METHODFILE Record」を参照してください。
LCMRPMAC	RHSC/UUI インタフェースの LCMRHSC レコード/再生
LCMRUN	LCM 実行用サンプル JCL
LCMTIDR	サンプル TMS インタフェース定義応答 xml 文書
LCMTMCI	LCM TMC 情報レコードのレイアウト定義用マクロ
LCMTTIR	サンプル TMS テープ情報応答 xml 文書
LCMUX01P	LCM TMS CUSTOM インタフェースが使用するパラメータリストの定義用マクロ。詳細については、『 <i>LCM User's Guide</i> 』の「TMS CUSTOM Interface Module Parameters」を参照してください。
LCMUX01S	LCM TMS CUSTOM インタフェースで使用するサンプルアセンブラープログラム
LCMVAUTM	Automedia を使用する IVP 用 LCM パラメータファイル
LCMVCA1	CA-1 を使用する IVP 用 LCM パラメータファイル
LCMVCOMM	共通フォーマットの TMS 抽出ファイルを使用する IVP 用 LCM パラメータファイル
LCMVCONT	Control-T を使用する IVP 用 LCM パラメータファイル
LCMVCUST	LCM カスタムテープ管理を使用する IVP 用 LCM パラメータファイルシステムインタフェース (テープ管理システムベンダーが提供するユーザー出口が必要)
LCMVNTMS	TMS を使用しない IVP 用 LCM パラメータファイル
LCMVRMM	DFSMsrm を使用する IVP 用 LCM パラメータファイル
LCMVTLMS	CA-TLMS を使用する IVP 用 LCM パラメータファイル

表 A-4 LCM のサンプル (続き)

メンバー名	説明
LCMXDMD	デマンド (またはシフト) 実行用 LCM パラメータファイル
LCMXDVLD	特殊なデータセットを使用したボールド実行用 LCM パラメータファイル
LCMXDVLS	複数サブプールを使用したボールド実行用 LCM パラメータファイル
LCMXDVLT	日次ボールド実行用 LCM パラメータファイル
LCMXRAC1	操作後レポート用 LCM パラメータファイル
LCMXREJ1	イジェクトレポート用 LCM パラメータファイル (データセット名を含む)
LCMXREJ2	データセット名で使用するボリュームのイジェクトレポート用 LCM name
LCMXREN1	LSM に含まれていないブルリスト上にあるボリュームのレポート用 LCM パラメータファイル
LCMXRERV	エラントボリュームのレポート作成用文
LCMXRMT1	複数の方式を使用する概要レポート用 LCM パラメータファイル
LCMXRMVC	MVC レポート用 LCM パラメータファイル
LCMXRSM1	LSM 概要レポート用 LCM パラメータファイル
LCMXRSR1	非 LSM スクラッチリストレポート用 LCM パラメータファイル
LCMXRVR1	HSC および TMS 情報を含むすべてのボリュームのレポート用 LCM パラメータファイル
LCMXSYNC	スクラッチ同期用 LCM パラメータファイル
LCMXTAC1	LCMXRAC1 のレポートテンプレートのサンプルソース
LCMXTAL1	LCMXRAL1 のレポートテンプレートのサンプルソース
LCMXTEJM	LCMXREJM のレポートテンプレートのサンプルソース
LCMXTEJ1	LCMXREJ1 のレポートテンプレートのサンプルソース
LCMXTEJ2	LCMXREJ2 のレポートテンプレートのサンプルソース
LCMXTEN1	LCMXREN1 のレポートテンプレートのサンプルソース
LCMXTERV	LCMXRERV のレポートテンプレートのサンプルソース
LCMXTINV	LCMXRINV のレポートテンプレートのサンプルソース
LCMXTMT1	LCMXRMT1 のレポートテンプレートのサンプルソース
LCMXTMUL	組み込み REPORT MULTIPLE テンプレートのサンプルソース
LCMXTMVC	LCMXRMVC のレポートテンプレートのサンプルソース
LCMXTPHY	組み込み REPORT PHYSICAL テンプレートのサンプルソース
LCMXTSM1	LCMXRSM1 のレポートテンプレートのサンプルソース
LCMXTSR1	LCMXRSR1 のレポートテンプレートのサンプルソース
LCMXTVIR	組み込み REPORT VIRTUAL テンプレートのサンプルソース
LCMXTVR1	LCMXRVR1 のレポートテンプレートのサンプルソース

MVS/CSC のサンプルおよびマクロ

次の表は、ELS インストールテープ/CD-ROM に収められている MVS/CSC のサンプルおよびマクロのリストです。

表 A-5 MVS/CSC のサンプル

メンバー名	説明
APPCPMYY	APPC/MVS のシステムベース LU の定義のサンプル
CSCPARM0	VM ベースの (CLS) サーバーとの VTAM 通信接続の例を示す、MVS/CSC 起動パラメータファイルのサンプル
CSCPARM1	VM ベースの (CLS) 二重サーバーとの TCP/IP 通信接続の例を示す、MVS/CSC 起動パラメータファイルのサンプル
CSCPARM2	UNIX ベースの (ACSL) サーバーとの TCP/IP 通信接続の例を示す、MVS/CSC 起動パラメータファイルのサンプル
CSCPARM3	MVS ベースの (LibraryStation) サーバーとの TCP/IP 通信接続の例を示す、MVS/CSC 起動パラメータファイルのサンプル
CSCPARM4	MVS ベースの (LibraryStation) サーバーとの LU 6.2 通信接続の例を示す、MVS/CSC 起動パラメータファイルのサンプル
CSCPARM5	UNIX ベースの (ACSL) サーバーとの LU 6.2 通信接続の例を示す、MVS/CSC 起動パラメータファイルのサンプル
CSCPARM6	MVS ベースの (LibraryStation) サーバーとの XCF 通信接続の例を示す、MVS/CSC 起動パラメータファイルのサンプル
CSCPROC	起動 JCL のサンプル
DEFAPPC	APPC サイドの情報ファイルを作成する JCL のサンプル
IEAAPFYY	MVS/CSC APF リストエントリのサンプル
IEFSSNYY	MVS/CSC サブシステム名テーブルエントリのサンプル
JCLCFGV1	起動パラメータおよび MVS システム定義のみを確認する、構成検証ユーティリティの JCL のサンプル
JCLCFGV2	起動パラメータ、MVS システム定義、およびサーバー構成の互換性を確認する、構成検証ユーティリティの JCL のサンプル
JCLCONDB	スクラッチ変換ユーティリティの JCL のサンプル
JCLLOGR	イベントログレポートユーティリティの JCL のサンプル
JCLSCRUP	スクラッチ更新ユーティリティの JCL のサンプル
LU6APPL	VTAM のためのローカル LU の定義のサンプル
PGMISAM1	単一 MVS/CSC サブシステム環境で発行される QVOLUME 要求のサンプル
PGMISAM2	複数 MVS/CSC サブシステム環境で発行される QCSC および QVOLUME 要求のサンプル
PROGYY	MVS/CSC APF リストエントリのサンプル
SCHEDYY	MVS/CSC の MVS プログラム属性テーブル (PPT) エントリのサンプル
TREQSAM1	TAPEREQ 制御文のサンプル
TREQSAM2	TAPEREQ 制御文のサンプル
UX05CSC1	動作不可のリターンコードを戻す MVS/CSC ユーザー出口05 のサンプル

表 A-6 MVS/CSC のマクロ

メンバー名	説明
SCSUX05P	MVS/CSC ユーザー出口05のパラメータリスト
SCSXREQ	プログラム式インタフェース要求
SCSXREQM	プログラム式インタフェースマッピングマクロ
SCUDRINF	TMS DB Read パラメータリスト

LibraryStation のサンプルおよび ソースコードモジュール

次の表は、ELS インストールテープ/CD-ROM に収められている LibraryStation のサンプルおよびソースコードモジュールのリストです。

表 A-7 LibraryStation のサンプル

メンバー名	説明
SLGPROC	LibraryStation 起動 JCL のサンプル
SLGAPFXX	LibraryStation APF リストエントリのサンプル
SLGDBCR	LibraryStation PDF を定義する JCL のサンプル
SLGPRGXX	LibraryStation APF リストエントリのサンプル

表 A-8 LibraryStation のソースコードモジュール

メンバー名	説明
SLGDJCL	SLGDIAG インストール検証プログラム (IVP) を実行する JCL のサンプル
SLGDEXEC	SLGDIAG IVP を実行する REXX exec のサンプル

索引

A

- APF (許可プログラムリスト)
 - HSC ユーザー出口ライブラリの追加, 58
 - MVS/CSC ユーザー出口ライブラリの追加, 86

C

- CHGIT、編集およびテスト, 31
- consolidated software inventory (CSI)
 - ELS のための初期設定, 33
 - ELS のための定義, 33
- CSI (consolidated software inventory), 33

E

- ELS
 - CSI の初期設定, 33
 - CSI の定義と初期設定, 33
 - FMID, 38
 - SMP/E 環境, 32
 - インストール CD-ROM の内容, 20
 - 仮想ストレージの要件, 24
 - 機能
 - SMP/E ACCEPT, 42
 - SMP/E APPLY, 41
 - SMP/E RECEIVE, 38
 - サンプル, 96
 - ソースコードモジュール, 97
 - ソフトウェア要件, 21
 - ターゲットおよびディストリビューションライブラリデータセット, 34
 - ハードウェア要件, 23
 - マクロ, 98
 - ロードライブラリの許可, 50

F

- FMID、ELS, 38

H

- HELD PTF の分離, 47
- HSC
 - MVS サブシステムとしての定義, 57
 - MVS プログラム属性テーブル (PPT) の修正, 60
 - システム管理機能 (SMF) パラメータの追加, 60
- HSC ユーザー出口ライブラリ、許可, 58

I

- IATIICM Type 1 の修正, 65
- IATIIIP1 Type 1 の修正, 65
- IATMDAL Type 1 の修正, 66
- IATMDFE Type 1 の修正, 66
- IATUX09 ユーザー出口の修正, 68
- IATUX71 ユーザー出口の修正, 70

J

- JCL
 - テープから SMP/E JCL ライブラリをアンロード, 30
 - 保守インストール, 44
- JES3
 - IATUX09 ユーザー出口の修正, 68
 - IATUX71 ユーザー出口の修正, 70
 - SMC Type 1 の修正の作成およびインストール, 65
 - SMC のための SMCERSLV モジュールのアセンブル, 62
 - ロードライブラリの許可, 63

L

- LCM
 - Agent スタートアップタスクのパラメータ, 79
 - EDI からの HSC CDS の除外, 75
 - LCM Agent のインストールおよび構成, 77
 - LCM Explorer のインストール, 80
 - インストールの検証, 76
 - ロードライブラリの許可, 74

LibraryStation

- 永続データファイル (PDF) の定義, 91
- サンプル, 105
- ソースコードモジュール, 105
- ロードライブラリの許可, 89

M

MVS/CSC

- MVS サブシステムとしての定義, 82
- MVS プログラム属性テーブル (PPT) の修正, 88
- イベントログおよびトレースのデータセットの割り振り, 88
- サンプル, 102, 104
- トレースデータセットの割り振り, 88
- マクロ, 105
- ロードライブラリの許可, 84

MVS/CSC ユーザー出口ロードライブラリの許可, 86

MVS LINKLIST

- SCSBPREI モジュールの移動, 88
- SCSBPREI モジュールのコピー, 88
- SLSBPRIEI モジュールの移動, 59
- SLSBPRIEI モジュールのコピー, 59
- SMCBPREI モジュールの移動, 53
- SMCBPREI モジュールのコピー, 53

P

PDF (永続データファイル)、LibraryStation のための定義, 91

PPT (プログラム属性テーブル)

- HSC のための修正, 60
- MVS/CSC のための修正, 88
- SMC のための修正, 56

S

SCSBPREI モジュール、MVS LINKLIST へのコピーまたは移動, 88

SLSBPRIEI モジュール、MVS LINKLIST へのコピーまたは移動, 59

SLUDR* モジュール、HSC のための再アセンブル, 61

SMC

- MVS サブシステムとしての定義, 52
- MVS プログラム属性テーブルの修正, 56

SMCBPREI モジュール、MVS LINKLIST へのコピーまたは移動, 53

SMCERSLV モジュール、アセンブル, 62

SMCERSLV モジュールのアセンブル, 62

SMF (システム管理機能) パラメータ、追加, 60

SMP/E

- ACCEPT ELS 機能, 42
- APPLY ELS 機能, 41
- JCL ライブラリ、アンロード, 29
- RECEIVE ELS 機能, 38
- 環境の準備, 32

V

VTCS

- システム管理機能 (SMF) パラメータの追加, 60

い

イベントログデータセット、割り振り, 88

インストール準備作業、ELS, 17

か

仮想ストレージの要件、ELS, 24

環境、SMP/E, 32

き

共存、ELS ソフトウェア, 25

許可プログラムリスト (APF)

- HSC ユーザー出口ライブラリの追加, 58

MVS/CSC ユーザー出口ライブラリの追加, 86

こ

考慮事項、インストール準備作業, 25

さ

サブシステム名テーブル

- MSTR のもとでの SMC の実行, 55
- SMC、TMS、および Unicenter CA-MIA, 54
- TMS との相互作用, 53
- Unicenter CA-MIA, 54
- 修正についての注意, 55

サンプル、ELS, 96

し

システム管理機能 (SMF) パラメータ、追加, 60

修正サービス

- CD-ROM からアンロード, 45
- HELD PTF の分離, 47
- SMP/E ACCEPT, 46
- SMP/E APPLY, 46
- SMP/E RECEIVE, 46
- インストールデータセット, 43
- サンプルのアンロード, 44
- メディア, 44

す

スターテッドタスクのパラメータ、LCM Agent, 79

そ

ソースコード モジュール、ELS, 97
ソフトウェア要件、ELS, 21

た

ターゲットライブラリデータセット、割り振り、34

ち

チェックリスト、インストール、28

て

テープ管理システム (TMS)、定義、52

と

トレースデータセット、割り振り、88

な

内容
インストール CD-ROM, 20
修正サービステープ /CD-ROM, 44

は

ハードウェア要件、ELS, 23
配布データセット、ELS への割り振り、34

ひ

表記法
制御文、14
表記法、14

ふ

プログラム属性テーブル (PPT)
HSC のための修正、60
MVS/CSC のための修正、88
SMC のための修正、56

ほ

保守
CD-ROM からアンロード、45
HELD PTF の分離、47
SMP/E ACCEPT, 46
SMP/E APPLY, 46
SMP/E RECEIVE, 46
インストールデータセット、43
サンプルのアンロード、44
メディア、44

ま

マイグレーション、ELS ソフトウェア、25
マクロ、ELS, 98

ろ

ロードライブラリの許可
ELS, 50
HSC ユーザー出口ライブラリ、58
LCM, 74
LibraryStation, 89
MVS/CSC, 84
MVS/CSC ユーザー出口ライブラリ、86
SMC JES3, 63

わ

割り振り
ELS
ターゲットライブラリデータセット、34
ディストリビューションライブラリ
データセット、34
MVS/CSC のイベントログおよびトレースの
データセット、88

